

教育に関する事務の管理及び執行状況の  
点検・評価報告書  
【令和3年度実施事業】

令和4年9月  
長浜市教育委員会

## < 目 次 >

1 点検・評価制度の概要について	
(1) 趣旨	……………1
(2) 点検・評価の対象	
(3) 実施方法	
(4) 実施スケジュール	
(5) 長浜市教育委員会事務評価委員会 委員名簿	
2 教育委員会の活動概要について	……………2
3 点検・評価の結果について	
(1) 評価基準	……………5
(2) 評価結果の概要	
(3) 事業別評価結果	
<基本目標1>	
乳幼児期における就学前教育を充実します	……………10
<基本目標2>	
子どもの自立に向けて「生きる力」を育む教育を推進します	……………15
<基本目標3>	
学校・家庭・地域のつながりを深め、地域全体の教育力の向上をめざします	……………27
<基本目標4>	
地域の伝統・文化を生かし、郷土を愛する心を育てます	……………33
<基本目標5>	
いつでも、どこでも、だれでも学びあえる生涯学習環境の充実を図ります	……………36
<基本目標6>	
安全・安心で質の高い教育を支える環境を整備します	……………45
4 第3期長浜市教育振興基本計画	……………49
資 料	……………50

---参考法令等---

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律 抜粋(一部省略)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

○第3期長浜市教育振興基本計画 一部抜粋

第1章

5.計画の進捗管理

本計画を効果的かつ確実に推進していくため、本計画に掲げる内容に基づき実施する具体的な施策について、年度ごとに整理し、関係機関で情報共有します。

また、本計画の進捗状況について、PDCAサイクルの考え方に基づき、毎年度点検・評価を実施することで、成果や課題を検証しながら、着実に各種施策に取り組みます。

なお、本計画の着実な推進にあたって、目標とする客観的な指標(進捗管理目標)を設定します。実施した取組の成果はこの指標だけでは表せない実態があるため、当指標以外の様々な実態を確認し検証を行います。

# 1 点検・評価制度の概要について

## (1) 趣旨

教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号・以下「法」という。)第26条の規定及び第2期長浜市教育振興基本計画第4章に掲げるとおり、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たすため、教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価(以下、「点検・評価」という。)を実施する。

## (2) 点検・評価の対象

令和3年度長浜市教育振興基本計画実施プラン(以下「実施プラン」という。)に掲げる事業を対象とする。

		内部評価	外部評価
教育委員会の権限に属する事業	指標(進捗管理目標)対象事業(38件)	●	●
	その他事業(13件)	●	●
市長部局の権限に属する事業	指標(進捗管理目標)対象事業(15件)	●	—
	その他事業(5件)	●	—

## (3) 実施方法

- 一 令和3年度実施プランに掲げる事業の数値目標等に対する実績等を明らかにし、自己点検・評価を行う。(内部評価)
- 二 上記事業のうち、教育委員会の権限に属する事業について、法第26条に基づき長浜市教育委員会事務評価委員会を開催し、学識経験者の意見・助言を求める。(外部評価)
- 三 点検・評価の結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表する。
- 四 報告書は、PDCAサイクルに基づいた取組により、次年度以降の目標設定や事業立案に活用する。

## (4) 実施スケジュール

令和3年度	
4月	令和3年度実施プランの公表
4月～3月	各事業の執行
令和4年度	
5月～7月	自己点検・評価の実施(内部評価)
7月15日	事務評価委員会開催(外部評価)
8月18日	教育委員会8月定例会で審議
9月	市議会へ報告書を提出、公表

## (5) 長浜市教育委員会事務評価委員会 委員名簿

	氏名	備考
委員長	大橋 松行	滋賀県立大学名誉教授
副委員長	大橋 英子	滋賀文教短期大学教授
	城楽 直	学校運営協議会委員
	高橋 幸子	合同会社LOCO
	森川 裕子	家庭教育支援チーム「えがお」代表

※役職は就任時のもの。任期は2年

## 2 教育委員会の活動概要について

### 1 教育長・委員

教育長	板山 英信
教育長職務代理者	美濃部 俊裕
委員	廣田 光前
委員	宮本 麻里
委員	中村 亜紀
委員	松宮 誠也

### 2 教育委員会 会議の状況

#### (1) 定例会及び臨時会の開催状況

定例会	12回
臨時会	2回

#### (2) 審議及び協議・報告件数

請願審議	1件
議案審議	34件
協議・報告	14件

#### (3) 傍聴者 延べ 2人

#### (4) 委員協議会の開催状況及び協議件数 10回 15件

### 3 主な活動状況

#### (1) 教育委員会の大会、会議、研修会等への出席

- ・長浜市総合教育会議 2回
- ・教育委員研修など

#### (2) 式典等への出席

- ・卒業式

#### (3) 学校、教育関係機関の訪問等

- ・園訪問(幼稚園・保育所・認定こども園)

<定例会及び臨時会審議案件等一覧>

4月定例会	議案審議	議案第21号 学校運営協議会委員の任命について 議案第22号 長浜市図書館協議会委員の任命について 議案第23号 長浜市社会教育委員の委嘱について
5月定例会	議案審議	議案第24号 議会の議決を経るべき教育関係議案に関する意見について 議案第25号 長浜市立学校給食センター規則の一部改正について 議案第26号 長浜市学校給食費の会計処理に関する規則及び長浜市学校給食会規則の廃止について 議案第27号 学校運営協議会委員の任命について
6月定例会	議案審議	議案第28号 臨時代理の承認について 議案第29号 学校運営協議会委員の任命について
	協議・報告	(1) 旧七尾小学校の利活用について
7月定例会	請願審議	請願第1号 教科書採択にかかる請願書について
	議案審議	議案第30号 長浜南部学校給食センター調理配送業務プロポーザル選定委員会設置要綱の制定について 議案第31号 長浜北部学校給食センター調理配送業務プロポーザル選定委員会設置要綱の制定について 議案第32号 長浜市保育業務支援システム導入及び運用保守業務プロポーザル選定委員会設置要綱の制定について
	協議・報告	(1) 令和3年長浜市議会6月定例会一般質問答弁要旨について
8月定例会	議案審議	議案第33号 令和4年度使用中学校社会科(歴史分野)教科用図書採択について
	協議・報告	(1) 令和4年度 幼稚園、保育所及び認定こども園の入園入所申込受付について
9月定例会	協議・報告	(1) 長浜市立学校修学旅行費補助金交付要綱の制定について (2) 令和3年度教育委員会事務評価委員会委員の委嘱について (3) 令和3年長浜市議会9月定例会一般質問答弁要旨について
11月定例会	議案審議	議案第34号 議会の議決を経るべき教育関係議案に関する意見について 議案第35号 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価報告書について
	協議・報告	(1) 長浜市保育士等奨学金返還支援金交付要綱の一部改正について (2) 長浜市保育士等宿舍居住支援事業補助金交付要綱の一部改正について (3) 長浜市保育士等の再就職定着応援金交付要綱の一部改正について
12月定例会	議案審議	議案第36号 長浜市立幼稚園における預かり保育の実施に関する規則の一部改正について
	協議・報告	(1) 令和3年長浜市議会12月定例会一般質問答弁要旨について
1月定例会	議案審議	議案第1号 臨時代理の承認について
2月定例会	議案審議	議案第2号 議会の議決を経るべき教育関係議案に関する意見について
3月臨時会	議案審議	議案第3号 長浜市立小学校、中学校及び義務教育学校の校長及び教頭の任免の内申について

3月臨時会	議案審議	議案第4号 教育長の辞職の同意について
3月定例会	議案審議	議案第5号 令和4年度長浜市教育行政方針の策定について 議案第6号 長浜市教育委員会職員の標準的な職を定める規則の制定について 議案第7号 長浜市教育委員会情報通信の技術の利用における規則で定める申請等に係る署名又は押印の措置に関する規則の制定について 議案第8号 長浜市教育委員会情報通信の技術の利用における要綱で定める申請等に係る署名又は押印の措置に関する要綱の制定について 議案第9号 長浜市教育委員会情報通信の技術の利用における規程で定める申請等に係る署名又は押印の措置に関する規程の制定について 議案第10号 長浜市教育委員会事務局組織規則の一部改正について 議案第11号 長浜市教育委員会職員の職名に関する規則の一部改正について 議案第12号 長浜市立幼稚園の管理運営に関する規則の一部改正について 議案第13号 長浜市立学校の学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の公務災害補償に関する条例施行規則の一部改正について 議案第14号 長浜市就学援助費及び入学前応援金給付要綱の一部改正について 議案第15号 長浜市教育委員会事務処理規程の一部改正について 議案第16号 長浜市社会教育委員の委嘱について 議案第17号 長浜市図書館協議会委員の委嘱について 議案第18号 教育委員会の所属職員の任免について
	協議・報告	(1) 長浜市保育所等延長保育事業実施要綱の制定について (2) 長浜市民間認可保育所及び認定こども園運営補助金交付要綱の一部改正について (3) 長浜市保育士等宿舍居住支援事業補助金交付要綱の一部改正について (4) 令和4年長浜市議会3月定例会一般質問答弁要旨について

< 委員協議会協議案件等一覧 >

4月	協議・報告	(1) 令和3年長浜市議会6月定例会提出案件について
5月	協議・報告	(1) 長浜市図書館基本計画（第2期）の策定について（経過報告）
7月	協議・報告	(1) 令和3年度教科用図書の採択について
8月	協議・報告	(1) 長浜市における生徒指導の現状について
10月	協議・報告	(1) 令和3年長浜市議会12月定例会提出案件について (2) 令和3年度全国学力・学習状況調査の概要説明について
11月	協議・報告	(1) 長浜市図書館基本計画（第2期）の策定について (2) 令和4年度当初予算重点事項について
12月	協議・報告	(1) 長浜市における生徒指導の現状について
1月	協議・報告	(1) 令和4年長浜市議会3月定例会提出案件について (2) 令和3年度長浜市ひらがなの読み書きプログラムについて
2月	協議・報告	(1) 令和4年度教育委員会事務局組織機構の改編について (2) 長浜市生涯学習社会づくり基本方針の改定について
3月	協議・報告	(1) 長浜市文化芸術振興ビジョンの策定について (2) 長浜市における生徒指導の現状について

### 3 点検・評価の結果について

#### (1) 評価基準

##### 1. 指標(進捗管理目標)対象事業 ※指標(進捗管理目標)がある施策

評価	内容
A	目標達成率90%以上～100%超
B	目標達成率70%以上～90%未満
C	目標達成率50%以上～70%未満
D	目標達成率50%未満

##### 2. その他事業 ※指標(進捗管理目標)がない施策

評価	内容
達成	具体的な施策を通して、基本目標が達成できた
未達成	具体的な施策を通して、基本目標が達成できなかった

(2)評価結果の概要

1.指標(進捗管理目標)対象事業

※53項目のうち、★のついた38項目の指標(進捗管理目標)については外部評価対象

施策の基本的方向		【基本目標1】 1.生きる力の基礎を培う就学前教育の充実					
No.	指標(進捗管理目標)	担当課	現状	目標(R7)	目標(R3)	実績(R3)	事業の評価
★1	園の教育課程及び指導計画に、特色ある保育内容を取り入れている割合	幼児課	50.0%	100.0%	60.0%	55.0%	A
★2	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を実感した割合(保護者アンケート)	幼児課	—	70.0%	50.0%	69.9%	A
★3	特別支援教育士資格の取得者数	幼児課	1人	5人	取得者1人 受講者2人	取得者1人 受講者2人	A
★4	家庭において、乳幼児に週2日以上読み聞かせを実施している割合	幼児課	—	90.0%	50.0%	61.0%	A
★5	アプローチ・スタートカリキュラムをテーマにした園小連携及び研究会の実施校区の数	幼児課	1小学校区 (25小学校区中)	全小学校区	4小学校区	4小学校区	A

施策の基本的方向		【基本目標2】 2.一人ひとりを大切にする教育の推進					
No.	指標(進捗管理目標)	担当課	現状	目標(R7)	目標(R3)	実績(R3)	事業の評価
★7	いじめと認知され、対応することができた件数 ※「いじめを見逃さない」という考えから、積極的に認知します。	教育指導課	小学校192件	前年比増	小学校200件	小学校178件	B
			中学校 75件	前年比増	中学校100件	中学校67件	C
	いじめの解消率	教育指導課	小学校78.0% 中学校84.0%	小中学校ともに 100.0%	小中学校ともに 100.0%	小学校86.0% 中学校89.6%	B B
★8	通常学級に在籍している児童生徒のうち、支援が必要と考えられる者で、「個別の指導計画」が学校で作成されている割合	教育指導課	93.0%	100.0%	95.0%	90.0%	A
	特別支援学級に在籍児童生徒及び通級による指導を受ける児童生徒の「個別の教育支援計画」を作成する割合	教育指導課	—	100.0%	100.0%	100.0%	A
	特別支援学校教諭免許状の取得者数	教育指導課	69人	前年比増	74人	83人	A
★9	多様な学びの場を求める子どもが学校以外の場で学ぶことにより出席認定された数	教育指導課	13人	前年比増	15人	19人	A

施策の基本的方向		【基本目標2】 3.確かな学力の育成					
No.	指標(進捗管理目標)	担当課	現状	目標(R7)	目標(R3)	実績(R3)	事業の評価
★11	全国学力学習状況調査・国語の正答率と本市正答率との比較(全国学力・学習状況調査)	教育指導課	小 -2.8%	前年度比 +0.5%	小 -2.3%	小 -5.7%	D
			中 -2.8%		中 -2.3%	中 -1.6%	A
★11	全国学力学習状況調査・算数(数学)の正答率と本市正答率との比較(全国学力・学習状況調査)	教育指導課	小 -1.6%	前年度比 +0.5%	小 -1.1%	小 -3.2%	D
			中 -0.8%		中 -0.3%	中 -0.2%	A
★13	CEFR(セファール)A1レベル相当以上の英語力を有するとと思われる中学3年生生徒の割合	教育指導課	38.5%	50.0%	40.0%	39.2%	A
★15	授業にICTを活用して「資料・意見等の提示」、「学習用ソフトウェアを活用した協働的な学習」ができることと答えた教員の割合(学校における教育の情報化の実態等に関する調査)	教育改革推進室	53.7%	100.0%	63.0%	73.1%	A

施策の基本的方向		【基本目標2】 4.豊かな心の育成					
No.	指標(進捗管理目標)	担当課	現状	目標(R7)	目標(R3)	実績(R3)	事業の評価
★16	「職場体験で自分の良さや適性等を発見したり、確認したりできた」と答えた割合(中学生チャレンジウィーク事後アンケート)	教育指導課	89.0%	95.0%	90.0%	事業実施なし	D
★17	「自分には、よいところがある」と答えた割合(全国学力・学習状況調査)	教育指導課	小 81.6%	小 87.0%	小 83.0%	小 76.5%	A
			中 76.2%	中 82.0%	中 78.0%	中 77.9%	A
★18	「今住んでいる地域の行事に参加している」と答えた割合(全国学力・学習状況調査)	教育指導課	小 83.3%	小 88.0%	小 84.0%	小 79.0%	A
			中 67.5%	中 72.0%	中 68.0%	中 57.7%	B
★19	「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたい」と答えた割合(全国学力・学習状況調査)	教育指導課	小 66.9%	小 72.0%	小 68.0%	調査項目がなかった	-
			中 58.7%	中 64.0%	中 60.0%	調査項目がなかった	-
★20	情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方や態度を身につけさせるための研修会や授業を行った学校の割合	教育指導課	—	小中学校ともに	小中学校ともに	小 100.0%	A
			—	100.0%	100.0%	中 100.0%	A

施策の基本的方向		【基本目標2】 5.健やかな体の育成					
No.	指標(進捗管理目標)	担当課	現状	目標(R7)	目標(R3)	実績(R3)	事業の評価
★21	新体力テストの体力合計得点 ・小学5年生	すこやか教育推進課	男子:50.99点	男女ともに	男子:51.79点	男子:50.71点	A
			女子:52.81点			55.00点	女子:53.24点
	男子:41.86点		男子:43.00点	男子:42.08点	男子:41.68点	A	
	女子:48.32点		女子:50.00点	女子:48.65点	女子:48.47点	A	
★22	バランスのとれた食事をすることは大切だと思っている児童・生徒の割合(食育アンケート)	すこやか教育推進課	小5 98.0%	小中学校ともに	小中学校ともに	小5 98.2%	A
			中2 99.1%			100.0%	100.0%
	小5 90.6%		小5 93.0%	小5 91.0%	小5 89.6%	A	
	中2 86.1%		中2 90.0%	中2 88.0%	中2 85.7%	A	
★22	朝食を毎日食べる児童・生徒の割合(食育アンケート)	すこやか教育推進課	—	—	—	—	—

施策の基本的方向		【基本目標3】 6.学校・家庭・地域による教育環境づくり					
No.	指標(進捗管理目標)	担当課	現状	目標(R7)	目標(R3)	実績(R3)	事業の評価
★23	「長浜子どものちかい」「長浜子育て憲章」の保護者・地域・各団体への周知、啓発回数	教育改革推進室	91回	100回	93回	117回	A
★24	地域とともに進めるよりよい学校づくり満足度(長浜市民満足度調査)	教育指導課	3.39点	3.50点	3.40点	3.24点	A
★25	スクールガードについて、次のいずれかを充足した小学校数 ・スクールガード登録率(登録者数/児童数) 25%以上 ・通学距離・危険個所での必要人数率(登録者数/必要数) 100%以上	すこやか教育推進課	22校 (25小学校中)	25校	23校 (25小学校中)	21校 (25小学校中)	A
26	児童虐待に関する啓発回数	子育て支援課	9回	15回	10回	9回	A
施策の基本的方向		【基本目標3】 7.子育て支援体制の充実					
No.	指標(進捗管理目標)	担当課	現状	目標(R7)	目標(R3)	実績(R3)	事業の評価
★27	保育所・認定こども園(長時部)の待機児童数	幼児課	35人	0人	15人	13人	A
28	ひとり親家庭の相談件数	子育て支援課	2,122件	2,500件	2,200件	2,354件	A
29	放課後児童クラブの待機児童数	子育て支援課	214人	0人	56人	0人	A
施策の基本的方向		【基本目標3】 8.人権尊重の社会づくりの推進					
No.	指標(進捗管理目標)	担当課	現状	目標(R7)	目標(R3)	実績(R3)	事業の評価
30	自治会での人権学習会の評価(5段階評価)	人権施策推進課	4.6	4.8	4.8	2.7	C
31	固定的な性別役割分担意識にとらわれない人の割合(男女共同参画に関する市民意識調査)	人権施策推進課	58.9%	70.00%	70.0%	62.0%	B
施策の基本的方向		【基本目標4】 9.地域の伝統・歴史・文化の継承					
No.	指標(進捗管理目標)	担当課	現状	目標(R7)	目標(R3)	実績(R3)	事業の評価
32	指定文化財の件数	歴史遺産課	453件	459件	458件	470件	A
33	地域にある文化財を保護・活用する保存活用団体等の数	歴史遺産課	1件	3件	1件	1件	A
34	長浜城歴史博物館の入館者数	歴史遺産課	99,481人	130,000人	35,000人 (R3開館:4か月)	17,390人	D
施策の基本的方向		【基本目標5】 10.人生100年時代を見据えた生涯学習の推進					
No.	指標(進捗管理目標)	担当課	現状	目標(R7)	目標(R3)	実績(R3)	事業の評価
★35	地域に根ざした生涯学習事業(学びと生涯学習のまちづくり推進事業)の計画講座数	生涯学習文化課	142講座	160講座	430講座	271講座	C
	子ども学び座の計画講座数	生涯学習文化課	287講座	300講座	上段に統合	上段に統合	-
★36	生涯学習講座(学びなおし講座)の計画講座数	生涯学習文化課	9講座	12講座	10講座	10講座	A
★37	リーダー育成事業 目標人数に対する参加率	生涯学習文化課	80.0%	90.0%	80.0%	80.0%	A
★39	レファレンス事例のホームページ公開件数	生涯学習文化課 (図書館)	—	15件	3件	8件	A
★40	図書館における貸出冊数	生涯学習文化課 (図書館)	873,970冊	1,300,000冊	900,000冊	870,578冊	A
★41	1か月間の読書冊数が1冊以下の割合 ・小学4年から6年生	生涯学習文化課 (図書館)	8.8%	7.5%	8.5%	12.7%	C
	1か月間の読書冊数が1冊以下の割合 ・中学生		33.9%	15.0%	30.0%	32.6%	A
施策の基本的方向		【基本目標5】 11.文化・芸術の創造と振興					
No.	指標(進捗管理目標)	担当課	現状	目標(R7)	目標(R3)	実績(R3)	事業の評価
42	長浜市文化芸術ユース会議実施イベントの参加者数	生涯学習文化課	812人	900人	815人	732人	B
	自校主催の吹奏楽演奏会を開催している中学校の数	生涯学習文化課	4校	5校	4校	1校	D
43	長浜市舞台芸術交流祭の参加団体数	生涯学習文化課	8団体	9団体	8団体	中止	D
	長浜市芸術文化祭の参加事業数	生涯学習文化課	54事業	60事業	事業実施なし	事業終了	-
	長浜市民芸術文化創造協議会会員数	生涯学習文化課	8団体	9団体	9団体	12団体	A
施策の基本的方向		【基本目標5】 12.スポーツ活動の推進					
No.	指標(進捗管理目標)	担当課	現状	目標(R7)	目標(R3)	実績(R3)	事業の評価
44	スポーツ施設利用者数(学校開放事業除く)	スポーツ振興課	530,239人	560,000人	530,000人	345,426人	C
	全国規模大会開催数	スポーツ振興課	4件	15件	4件	4件	A

施策の基本的方向		【基本目標6】 13.質の高い教育のための環境整備					
No.	指標(進捗管理目標)	担当課	現状	目標(R7)	目標(R3)	実績(R3)	事業の評価
★50	小学校・中学校・義務教育学校のエレベーター設置割合	教育総務課	小:52.2%	小:60.0%	小:52.2%	小:52.2%	A
			中:70.0%	中:100.0%	中:70.0%	中:70.0%	A
			義:100.0%	義:100.0%	義:100.0%	義:100.0%	A
			合計:60.0%	合計:74.0%	合計:60.0%	合計:60.0%	A
★51	自主啓発研修・研究発表会等に、主体的に参加した教職員の人数	教育センター	延べ773人	延べ966人	延べ812人	延べ833人	A
★52	本市において適正に配置されていると考える学校の割合	教育改革推進室	82.9%	85.0%	82.9%	82.9%	A
★53	小中一貫教育により「学習指導」、「生徒指導」、「教職員の意識改革」に効果が認められたと回答した教職員の割合	教育改革推進室	70.8%	前年度比+0.5%	71.3%	76.0%	A

下段( ):全事業のうち、外部評価を受けた事業数

教育大綱	A	B	C	D	評価なし	計
基本目標1	5 (5)	—	—	—	—	5 (5)
基本目標2	21 (21)	4 (4)	1 (1)	3 (3)	2 (2)	31 (31)
基本目標3	7 (4)	1 (0)	1 (0)	—	—	9 (4)
基本目標4	2 (0)	—	—	1 (0)	—	3 (0)
基本目標5	7 (5)	1 (0)	3 (2)	2 (0)	1 (0)	14 (7)
基本目標6	7 (7)	—	—	—	—	7 (7)
計	49 (42)	6 (4)	5 (3)	6 (3)	3 (2)	69 (54)

## 2.その他事業 ※指標(進捗管理目標)がない施策

※12項目のうち、★のついた9項目の事業については外部評価対象

施策の基本的方向		【基本目標2】 2.一人ひとりを大切にする教育の推進				
No.	具体的な施策	主な事業又は取組	目的	担当課	事業の評価	
★6	きめ細かな指導の充実と学習方法の工夫改善	学校ICT活用事業	学校ICT支援員を配置し、教員のICT活用指導力の向上を図る。	教育改革推進室	達成	
		学校支援事業	各校の教育課題に応じて、特色ある教育活動を推進する。	教育指導課	達成	
★10	日本語指導が必要な児童生徒への支援	外国人児童生徒教育サポート事業	日本語指導が必要な児童生徒が基本的な日本語コミュニケーション能力を獲得し、基礎的・基本的な学力を身に付け、卒業後の進学・就職等将来への展望をもつことができるよう支援する。	教育指導課	達成	

施策の基本的方向		【基本目標2】 3.確かな学力の育成				
No.	具体的な施策	主な事業又は取組	目的	担当課	事業の評価	
★12	言葉の力の育成	学校図書館教育の推進	子どもたちに言語に触れる機会となる読書習慣を身につけさせ、また、授業等での書籍の活用を効果的に進めていくために学校司書との連携など必要な環境を整備し、子どもたちの言葉の力の育成を図る。	教育指導課	達成	
★14	理科教育の推進	「長浜学びの実験室」実施事業	児童生徒の自然科学への興味・関心を高め、探究心と問題解決能力を育成する。小・中・義務教育学校における理科教育指導の一層の向上と充実を図る。	教育指導課	達成	
		親子科学実験講座事業	児童生徒の自然科学への興味・関心や知的好奇心を高める。	教育指導課	未達成	

施策の基本的方向		【基本目標2】 4.豊かな心の育成				
No.	具体的な施策	主な事業又は取組	目的	担当課	事業の評価	
★19	グローバルな視点での教育活動の推進	環境教育の推進	環境保全の体験活動を通して、環境に対する理解と関心を高め、持続可能な社会の構築に向けて主体的に取り組める子どもを育成する。	教育指導課	達成	

施策の基本的方向		【基本目標4】 9.地域の伝統・歴史・文化の継承				
No.	具体的な施策	主な事業又は取組	目的	担当課	事業の評価	
33	歴史文化の継承	博物館・資料館における教育普及事業	市民や子どもたちが長浜の歴史・文化を通じて郷土に愛着と誇りを持つ。	歴史遺産課	達成	

施策の基本的方向		【基本目標5】 10.人生100年時代を見据えた生涯学習の推進				
No.	具体的な施策	主な事業又は取組	目的	担当課	事業の評価	
★38	学びのための情報発信	学びの機会や場の情報提供	市民が様々な手段で気軽に生涯学習講座などの情報を得る機会をつくる。	生涯学習文化課	達成	

施策の基本的方向		【基本目標5】12.スポーツ活動の推進			
No.	具体的な施策	主な事業又は取組	目的	担当課	事業の評価
45	「みる」スポーツの推進	ながはまスポーツ夢プロジェクト	子どもたちが著名なアスリートや指導者と触れ合う機会を提供することで、スポーツに対する夢や希望を育む。	スポーツ振興課	達成
		各スポーツ大会への助成	市民の「みる」スポーツへの関心を高める。		達成
46	「ささえる」スポーツの推進	各スポーツ団体への助成	スポーツ団体への助成を実施し、特に国スポ・障スポ大会の長浜市開催競技団体の組織体制強化を図る。	スポーツ振興課	達成
		総合型地域スポーツクラブの育成・支援	地域の実情に応じたきめ細やかなスポーツ活動を推進する。		達成

施策の基本的方向		【基本目標6】13.質の高い教育のための環境整備			
No.	具体的な施策	主な事業又は取組	目的	担当課	事業の評価
★47	誰もが安心して学べる学校・園施設等の整備	浅井中学校長寿命化改修事業	老朽化した建物について、機能や性能を現在求められている水準まで引き上げる。	教育総務課	達成
		学校・園防犯機能強化事業	学校・園において子どもたちが安心して学び、生活を送れるよう、施設の防犯機能の強化を図る。		達成
★48	就学援助による経済的支援	要保護準要保護児童生徒援助事業	経済的理由によって就学困難と認められる児童及び生徒へ就学援助等を行い、義務教育の円滑な実施に資する。	すこやか教育推進課	達成
		特別支援教育就学奨励事業	教育の機会均等の趣旨にのっとり、小・中・義務教育学校の特別支援学級の児童・生徒の保護者へ、就学に必要な経費の一部を支給することにより、特別支援教育の普及奨励及び振興に資する。		達成
★50	教職員の働き方改革の推進	職員のワークライフバランスの取組の推進	『長浜市立学校における働き方改革取組方針』に基づき、各学校の業務改善や校務分掌の見直しと教職員の意識改革を図る。	教育指導課	未達成

下段( ):全事業のうち、外部評価を受けた事業数

教育大綱	達成	未達成	計
基本目標1	-	-	-
基本目標2	6 (6)	1 (1)	7 (7)
基本目標3	-	-	-
基本目標4	1 (0)	-	1 (0)
基本目標5	5 (1)		5 (1)
基本目標6	4 (4)	1 (1)	5 (5)
計	16 (11)	2 (2)	18 (13)

◇事務評価委員会所見等

事務評価委員会の所見	教育委員会の今後の取組等
それぞれの課の事業に対して、各課の連携をさらに深めていただき、市民の学びが豊かになるようお願いしたい。	教育委員会事務局をはじめ関係各課・機関との情報や課題の共有を徹底し、市民の学びがより深く豊かになるよう、教育行政の充実に向け取り組みます。
たくさん事業をされているので、いろいろな形で市が頑張っているということをもっとアピールしてもらえれば、さらに長浜市は良くなるのではないかと。	取り組みや成果について、様々な媒体を活用し、積極的かつきめ細かに発信していきます。

### (3) 事業別評価結果

## 基本目標1

乳幼児期における就学前教育を充実します

事業No.に★がついている事業は外部評価の対象です。

教育大綱・基本目標	1 乳幼児期における就学前教育を充実します
施策の基本的方向	1 生きる力の基礎を培う就学前教育の充実

■指標(進捗管理目標)対象事業

★(1) 特色ある教育・保育の実践						
教育要領等の改訂に伴い、長浜市就学前教育カリキュラムの見直しを図り、各園の子どもの実態や課題を考慮した直接的、具体的な体験を通して学び質の高い教育・保育の一層の充実に努めます。特に園区の地域自然や文化とのふれあい、さらに施設や人材の活用を図る等、地域性を生かした総合的で特色のある教育・保育活動を実践します。						
指 標(進捗管理目標)		現状値	R7年度 目標値	R3年度 目標値	R3年度 実績値	事業の評価
園の教育課程及び指導計画に、特色ある保育内容を取り入れている割合		50.0%	100.0%	60.0%	55.0%	A
主な事業又は取組	目的	成果(実績)			決算(千円)	担当課
① 特色ある教育・保育の実践	身近な自然を生かした体験活動の充実や地域の施設・人材の活用を図る等、地域性を生かした特色ある教育・保育を進めるなかで、魅力ある園づくりを進める。	「わらべうた」「まゆの糸とり体験」等、特色ある保育を進めるための研修を15園で行った。また「2、3年次研修」「主幹研修」等のステージ研修を対象職員に計82回実施し、保育の質の向上を図った。			1,358	幼児課
② 長浜市就学前教育カリキュラムの改訂事業	教育要領等の改訂に伴い、長浜市就学前教育カリキュラムの見直しを行い、より質の高い就学前教育の推進を図る。	新教育要領等の変更点やカリキュラム改訂の方向性について学識経験者に2回指導を受け、長浜市就学前教育カリキュラム改訂の方法を検討した。			23	幼児課
低評価となった理由(D評価のみ記入)						
工夫・努力したこと		園長会や副園長会の機会を捉えて、各園で特色ある教育・保育に取り組むことの重要性を伝え、園の教育課程や指導計画に反映できるよう啓発した。				
課題・今後の取組		引き続き、特色ある教育・保育の推進をすとともに、各園の取組が分かるように「見える化」していく必要がある。カリキュラム改訂委員会を立ち上げ、学識経験者の助言を基に委員同士が学び合い、教育要領等の改訂内容を盛り込み、長浜市の重点を取り入れた就学前教育カリキュラムを改訂していく。				

★(2) 主体的な学びを育む教育・保育の充実						
子どもが身近な自然や物的・人的環境等に主体的に関わる中で、興味関心を広げ夢中になって遊びを創造する楽しさを味わうことのできる教育・保育の充実に努めます。また地域の自然を生かした体験活動や集団遊び等の多様な活動を通して、人と関わるコミュニケーション能力や基礎的な体力・運動機能の向上を図ります。						
指 標(進捗管理目標)		現状値	R7年度 目標値	R3年度 目標値	R3年度 実績値	事業の評価
「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を実感した割合(保護者アンケート)		—	70.0%	50.0%	69.9%	A
主な事業又は取組	目的	成果(実績)			決算(千円)	担当課
① 主体的な学びを育む保育活動の推進	多様な体験や集団あそび等、子どもたちが夢中になって取り組む遊びを創造することで、意欲や自信さらにはコミュニケーション力を培う。	子どもが主体的に体を動かすことを楽しむための環境づくりとして園庭環境や保育内容の見直しをテーマに2園で研究を行った。			176	幼児課
② 運動あそび推進事業	発達に合わせた体系的な運動を行うことで、その時期に身に付けることのできる基礎的な運動能力や体力を培う。	各園で子どもの発達に合わせた運動あそびを行い、基礎的な運動能力や体力・意欲の向上を図った。運動指導員による若手職員への訪問指導50回、園内指導64回を行い、子どもの意欲を高める指導の在り方を伝えた。			95	幼児課
低評価となった理由(D評価のみ記入)						
工夫・努力したこと		園庭環境について学識経験者より学び、主体的に体を動かして遊べる環境づくりを考える機会を提供した。各園の運動あそび環境写真を共有化し、主体的に取り組む運動あそび環境づくりの推進を図った。				
課題・今後の取組		研究園の成果や学びを共有し、各園での充実を図る必要がある。運動あそびの必要性や目的について再認識できる機会をつくり、意欲を高めるより良い環境や関わりを意識できるようにしていく。園で取り組む運動あそびを小学校へどのようにつなげていけるかが課題である。保護者アンケートについてはWebで実施したが、37.5%と低い回答率であったため周知方法の検討を行っていく。				

★(3) 一人ひとりの特性に応じた支援体制の充実					
関係機関や小学校との連携を図る中で、各園における支援体制の強化を図ります。また、支援児や外国籍児に対して、一人ひとりの発達や特性に応じた支援について職員のスキル向上をめざし研修体制の充実に努めます。					
指 標(進捗管理目標)	現状値	R7年度 目標値	R3年度 目標値	R3年度 実績値	事業の評価
特別支援教育士資格の取得者数	1人	5人	取得者1人 受講者2人	取得者1人 受講者2人	A
主な事業又は取組	目的	成果(実績)		決算(千円)	担当課
① 特別支援教育体制の充実	一人ひとりの特性に応じた適切な支援内容及び体制を整えることで、就学前特別支援教育の充実を図る。	市内2園に支援ルームを開設し、特別支援教育指導員を中心とした園内の支援体制を整えた。支援児や外国籍児に対して、専門家による巡回相談や研修を受け、支援の充実を図った。		2,373	幼児課
② 特別支援教育推進における人材育成	職員の特別支援にかかわる専門的な知識や技能、指導力の向上を図る。	経験年数に応じた特別支援に関わる研修(スキルアップ研修)を実施した。特別支援教育士の資格取得に向けて体制を整え、研修の受講を開始した。		319	幼児課
低評価となった理由(D評価のみ記入)					
工夫・努力したこと	特別支援教育体制の充実に向けて、園職員に周知するため、支援ルーム使用の手引きを作成した。特別支援教育指導員が実践的な学びを深め、より専門性を高めるための令和4年度研修計画を作成した。				
課題・今後の取組	園内支援充実のため、支援ルームの活用や特別支援教育指導員による指導を行う。にしがや認定こども園に支援ルームを新設し、環境設備を整えとともに園内支援の充実を図っていく。				

★(4) 言葉の力の基礎の育成					
親子による絵本等の読み聞かせの推進により、乳幼児期の成長に必要な不可欠な親子でのコミュニケーションを生み出すとともに、絵本を通じたふれあいの中で、想像力や言葉の表現・意味の理解、聞く力等、子どもたちに言葉の力の基礎を育みます。					
指 標(進捗管理目標)	現状値	R7年度 目標値	R3年度 目標値	R3年度 実績値	事業の評価
家庭において、乳幼児に週2日以上読み聞かせを実施している割合	-	90.0%	50.0%	61.0%	A
主な事業又は取組	目的	成果(実績)		決算(千円)	担当課
① 親子での絵本等の読み聞かせ推進	親子による絵本等の読み聞かせを通して、親子でのコミュニケーションや乳幼児期に必要な親子の愛着関係を養う。	公立2園において「おうちで読書」推進事業に参加し、親子で絵本に触れ、家庭での読み聞かせのきっかけとなった。また、各園で絵本貸し出しの機会を提供した。		27	幼児課
② 絵本等を活用した保育の推進	絵本やお話し等を活用した取組を充実させるなかで、想像力や豊かな心を育むことはもちろん、語彙力や読解力、集中力等の向上をめざす。	公立20園において絵本を購入し、図書環境を整備した。新書が増え、絵本貸し出しや読み聞かせの充実が図れた。		591	幼児課
低評価となった理由(D評価のみ記入)					
工夫・努力したこと	各園で絵本貸し出しを行い、親子で絵本に触れる機会を作るとともに、絵本だより等でお話に親しむことの大切さを啓発した。				
課題・今後の取組	令和3年度の実績値は61%であったが、回答率が低い中での値である。(R3回答率33%・R2回答率85%)令和3年度からWeb回答に変更された結果、紙面配布より回答率が低くなったと思われる。生涯学習文化課(図書館)と連携しながら、アンケート期間の延長やQRコードのポスター掲示などで周知を図っていく。				

★(5) 就学前教育から小学校教育への円滑な接続の推進					
就学前教育と小学校教育以上の学校教育を貫く「資質・能力の3つの柱」を基本に、園と小学校の連携のもとにアプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの見直しを図り、園から小学校への円滑な接続ができるように、発達や学びの連続性を踏まえた指導の充実を図ります。また、園と家庭、地域が連携・協働体制を構築し、子どもの学びを豊かなものにしていきます。					
指標(進捗管理目標)	現状値	R7年度 目標値	R3年度 目標値	R3年度 実績値	事業の評価
アプローチ・スタートカリキュラムをテーマにした園小連携及び研究会の実施校区の数	1小学校区 (25小学校区中)	全小学校区	4小学校区	4小学校区	A
主な事業又は取組	目的	成果(実績)		決算(千円)	担当課
① 園小接続カリキュラムの推進事業	教育要領等に示される「資質・能力の3つの力」の育成に向け、就学前の学びを小学校へと滑らかに接続する。	長浜市教育センターと連携し、園小を中心とした研修会を実施した。園の取組が小学校以降の学びにつながることを改めて学べた。		0	幼児課
② 園小連携推進事業	各校区における子どもの課題やめざす姿を明らかにし、園・小・中互いが連携し、発達や学びの連続性を踏まえた指導をする。	地区の園小連携を深め、保育参観、授業参観、意見交換会などを行い、互いの教育の在り方や育ち学びの連続性を学び合った。		0	幼児課
低評価となった理由 (D評価のみ記入)					
工夫・努力したこと	園小の連携を推進するため、教育センターと連携し、就学前からつなぐ「ことばの力」の育成に関する研究を行い、園と小学校での育ちの違いや学びの連続性について学び合う機会を作った。				
課題・今後の取組	研究校区については連携が深まっているが、他の学区については園小連携が進みにくい課題がある。教育指導課と連携して全小学校区に園小接続カリキュラムについて発信していく必要がある。市の取り組みについては私立園にも情報提供し、市内全園で園小連携が図れるように推進していく。				

### ◇事務評価委員会所見等

(2) 主体的な学びを育む教育・保育の充実	運動あそび推進事業【幼児課】
事務評価委員会の所見	教育委員会の今後の取組等
幼児期に運動遊びをして楽しかったという思いを小学校につなげていけるプログラムや、子どもたちが運動に携わる機会がもっと増えていけば良いのではないかと。	就学前に楽しんできた運動遊びをどう小学校へつなげていくかは課題と感じています。子どもたちが体を動かすことを好きになり、意欲的に体を動かすことができるような機会を積極的に作っていきたくと考えます。
長い年月をかけて継続されている事業なので、子どもたちが幼児期の間に、運動遊びを通して身につけた力やどのような学びをしてきたのかなど、小学校の先生と共有できる場があれば、園小連携につながるきっかけになるのではないかと。	就学前に楽しんできた運動遊びを、小学校の体育の授業での準備運動等につなげていけないうかが検討しています。運動保育士による1,2年生への運動遊び指導を計画している小学校もあるので、今後は広めていければと考えています。

(3) 一人ひとりの特性に応じた支援体制の充実	特別支援教育体制の充実【幼児課】
事務評価委員会の所見	教育委員会の今後の取組等
子どもたちや保護者にとっても、市内の全園に支援ルームがあるという意味は大きいので、難しいとは思いますが各園に支援ルームが開設されると良いのではないかと。また、保育士が資格を取る上で、普段の仕事が多忙にならないようにしていただきたい。	園の空き部屋を利用しているため、部屋が空いていない園については、現在は支援ルームを設置しにくい状況です。令和3年度に支援ルームを開設した長浜幼稚園や長浜北幼稚園は市内南部にあるため、令和4年度には市内北部のしあざい認定こども園で新たに開設しました。また、特別支援教育士の資格取得については、受講しやすい体制になるよう職員を配置しています。
一人ひとりの支援という体制を整えていただけるとは大変有難いと思うが、支援の先生に任せきりになり、担任の先生が全体が見えていないといったことにならないかという懸念がある。研修で、その辺りのフォローが必要ではないかと。	支援ルームは園の環境の一つとして、支援を必要とする園児が気持ちの切り替えをしてクラスで過ごせるようにするなど、一人ひとりの支援の充実を図っており、支援ルームの利用にあたっては担任と支援担当の連携を大切にしています。また、特別支援教育の研修会については、民間園の先生も含めて研修の機会を保障しています。

(4) 言葉の力の基礎の育成	絵本等を活用した保育の推進【幼児課】
事務評価委員会の所見	教育委員会の今後の取組等
子どもたちが絵本に触れることはとても大切なことなので、絵本の部屋など、子どもたちが園の絵本に触れる環境を改善していただきたい。	毎年各園には絵本の購入のため、図書費の配当をしていますが、十分ではないと認識しています。今後の課題と感じています。絵本の部屋の環境についてはボランティアの方にもご協力いただきながら各園で整備しています。
保護者も絵本をどれを選べば良いかわからないことがあると思うので、園で読み聞かせをした本などの情報を見ることができれば、さまざまな本を親子で知ることができ、家での読み聞かせの機会も増えるのではないかと。	このことを園にも伝え、保護者に絵本の読み聞かせが大切であることを意識していただけるように、各園の情報も含めて伝えていきたいと思います。

(5)就学前教育から小学校教育への円滑な接続の推進		園小連携推進事業【幼児課】	
事務評価委員会の所見		教育委員会の今後の取組等	
園小連携はとても大切なことだと思う。現在、具体的に進められている学校区での取組を広めていただき、市内全校区の学校への情報提供もお願いしたい。		子ども一人ひとりについての連携はしていますが、カリキュラム的な園小連携は課題と捉えています。園の保育内容を小学校の先生方に見ていただく機会が大切だと考えています。	
園小の子どもたちが交流する機会があるのならば、そのなかで先生同士の交流ができると良いのではないかな。		この2年ほどはコロナ禍で実施できていないことが多いですが、交流の機会をつくられている地域もあるため、そうした機会を検討していただけるよう働きかけていきます。	
園も学校も、色々な課題があり大変だとは思いますが、幼児から中学校卒業までの子どもたちを育てていくという観点からいうと、園小連携は大切なことだと思うので、制度的なものに取り組んでいただきたい。		園小連携は市全体としては十分ではないと感じていますので、教育指導課とも連携して進めていきたいと考えます。	
その他		アンケート実施【幼児課】	
事務評価委員会の所見		教育委員会の今後の取組等	
Webによるアンケートを実施され、回答率が低かったということだが、アンケートの周知方法ではなく、アンケートの取り方をもう一度検討された方が良いのではないかな。保護者の意見を聞くことは大切なことなので、できるだけたくさんの回答を得られるように検討いただきたい。		過渡期でもあるため、Webだけでなく紙の提出もできるよう両面で考え、周知方法も含めてたくさんの意見をいただけるように検討していきます。	

## 基本目標2

子どもの自立に向けて  
「生きる力」を育む教育を推進します

事業No.に★がついている事業は外部評価の対象です。

教育大綱・基本目標	2 子どもの自立に向けて「生きる力」を育む教育を推進します
施策の基本的方向	2 一人ひとりを大切にする教育の推進

■指標(進捗管理目標)対象事業

★(7) いじめ防止対策の総合的な推進

いじめは、どの子どもにも、どの学校でも起こりうることを踏まえ、子どもたちが安心して学校生活を送れるよう、「長浜市いじめ防止等の基本方針」に基づき、いじめの未然防止、早期発見、早期対応のための対策を総合的に推進します。また、自分らしさを発揮し、互いに認めあい、支えあい、いじめを生まない・許さない社会の実現に向けて主体的に取り組もうとする子どもを育成します。

指 標(進捗管理目標)	現状値	R7年度 目標値	R3年度 目標値	R3年度 実績値	事業の評価
いじめと認知され、対応することができた件数 ※「いじめを見逃さない」という考えから、積極的に認知します。	小学校192件	前年比増	小学校200件	小学校178件	B
	中学校 75件	前年比増	中学校100件	中学校 67件	C
いじめの解消率	小学校78.0%	小中学校ともに 100.0%	小中学校ともに 100.0%	小学校86.0%	B
	中学校84.0%			中学校89.6%	B

主な事業又は取組		目的	成果(実績)	決算(千円)	担当課
①	学校支援チーム活用事業	児童・生徒・教職員に関わる重篤な問題事案に対して、学校の初期対応・事後対応でのトラブルを最小限に抑える。	弁護士19回、精神科医6回の相談会を開催し、専門家からの確かな指導とアドバイスを受け、課題解決や問題の改善へとつながった。また、法律や医療的見地からアドバイスをいただけるので、自信をもって対応にあたることができた。	543	教育指導課
②	スクールソーシャルワーカー活用事業	課題を抱える児童生徒の背景を福祉的な側面からアセスメントし、指導に活かす。	スクールソーシャルワーカーを年間延べ204回学校に派遣した。専門的知見を活かし、子どもを取り巻く環境要因への働きかけを行った。	2,251	教育指導課
低評価となった理由 (D評価のみ記入)					
工夫・努力したこと		学校支援チーム活用事業では、予め相談する事柄を紙面にまとめていただいたことで、割り当てられた時間内に相談を終えられるようになってきた。スクールソーシャルワーカー活用事業では、学校からニーズがあった時に迅速に対応するように教育指導課とワーカーが連携して取り組んだ。			
課題・今後の取組		学校支援チーム活用事業では、弁護士、精神科医の専門的なアドバイスが加わることで、学校や教職員が自信をもち、かつ見通しをもって事案に対応することができている。スクールソーシャルワーカー活用事業では、外部専門家としてのスクールソーシャルワーカーの派遣依頼は多く、今後も増加傾向が予想される。学校現場のニーズにどう答えるかが課題である。福祉部局へのスムーズな接続などスクールソーシャルワーカーが効率的な活用となるようマネジメントし、学校へのアドバイスを積極的に行っていく。			

★(8) 特別支援教育の推進					
各園小中学校間の連携のもと、しょうがいのある子ども一人ひとりの教育的ニーズに応じた個別の指導計画及び教育支援計画の作成を一層進め、長期的な視点で子どもの自立に向けての適切な指導や支援を行います。また、子どもに関わる教職員の専門性向上の取組を進めるとともに、インクルーシブ教育システムの構築に努めます。					
指 標(進捗管理目標)	現状値	R7年度 目標値	R3年度 目標値	R3年度 実績値	事業の評価
通常学級に在籍している児童生徒のうち、支援が必要と考えられる者で、「個別の指導計画」が学校で作成されている割合	93.0%	100.0%	95.0%	90.0%	A
特別支援学級在籍児童生徒及び通級による指導を受ける児童生徒の「個別の教育支援計画」を作成する割合	—	100.0%	100.0%	100.0%	A
特別支援学校教諭免許状の取得者数	69人	前年比増	74人	83人	A
主な事業又は取組	目的	成果(実績)		決算(千円)	担当課
① 特別支援教育学校支援体制充実事業	特別支援教育に関する教職員の専門性を高め、適切な指導・支援が行える体制を整え、インクルーシブ教育システムの構築を図る。	専門家チームによる巡回相談を27校に77回実施した。合理的配慮支援員を48人配置した。教育委員会委託医による医療相談を年間14回実施した。		34,658	教育指導課
② 特別支援教育学校支援事業	体験的活動等を通して子どもの自立や健やかな成長を促す。また、個々の教育的ニーズにあった適切な指導・支援を充実させる。	合同発表会は、コロナ禍のため開催中止したが、合同交流会を各中学校区で集まるなどの形を変えて実施した。3校の通級指導教室サテライト教室を開設した。		287	教育指導課
低評価となった理由(D評価のみ記入)					
工夫・努力したこと	体験活動については、合同宿泊や合同発表会などの大勢が一会場に集まったの大規模な体験活動は実施が難しかったため、中学校区で近くの学校が数校集まって合同交流会を実施するなど開催方法を工夫して行った。				
課題・今後の取組	コロナ禍にあり、巡回相談の日程等が変更になり再調整をかけるにあたり、著名な講師の場合は再調整が難しいため、今後はすぐに相談したいときに連絡が取れる身近な講師の採用についても検討していく。				

★(9) 多様な学びの場を求める子どもや保護者の支援					
児童生徒の発達段階や発達課題及び家庭環境等に応じたきめ細かな教育相談活動の充実に努めるとともに、スクールカウンセラー等専門家や関係機関との連携を図ります。また、児童生徒の課題に応じた体験活動や生活改善に向けた指導・支援プログラム等を開発・実施し、児童生徒の自尊感情を高める、多様な学びの場を求める子どもへの教育機会の確保を推進します。					
指 標(進捗管理目標)	現状値	R7年度 目標値	R3年度 目標値	R3年度 実績値	事業の評価
多様な学びの場を求める子どもが学校以外の場で学ぶことにより出席認定された数	13人	前年比増	15人	19人	A
主な事業又は取組	目的	成果(実績)		決算(千円)	担当課
① 教育相談事業	不登校や発達に関する悩みを持つ保護者や教職員が現状の見立てや支援方法について相談できるようにする。	保護者や教職員の要望に対して相談業務を丁寧に実施した。(登校支援:913件 発達支援:1919件)カウンセリングの要望682件全てに応じて実施した。専門家を対象校に年間18回(2回はコロナ休校の影響で中止)派遣し、発達サポート事業を実施した。専門相談員による学校訪問相談を29回(うち12回はZoom相談)実施した。		7,119	教育センター
① こどもサポートルームなないろ運営事業	きめ細やかな支援や指導を行い、不登校状況にある児童生徒の社会性や自己肯定感を育み、自立へとつなげる。	通室生は4月(23名)から徐々に増加し、3月には35名がなないろを利用し年間延べ909回の指導を実施した。wi-fi環境を整えiPadを導入しオンライン通室や学習ツールを活用した。関わりが持てる機会として、通室生の交流会や作品展示を実施した。		32,801	教育センター
低評価となった理由(D評価のみ記入)					
工夫・努力したこと	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底するとともに、相談業務や発達サポート事業や通室については、オンライン相談やオンライン通室、日程の変更等により臨機応変に対応した。発達検査を生かした支援の提案を強化し、ケースに応じて相談後のフォローを実施した。				
課題・今後の取組	通室の多様化への対応と提案、アウトリーチ型の支援の推進を図る。また、将来の社会的自立をめざした他機関連携に努める。				

■その他事業

★(6) きめ細かな指導の充実と学習方法の工夫改善

言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力の育成や「主体的・対話的で深い学び」の充実にに向けた授業改善に取り組めます。ICT機器の活用を効果的に進め、創造的な問題発見・解決学習を充実させるとともに、個々に応じた学びの最適化により基礎学力や学習意欲の向上を図ります。

主な事業又は取組		目的	成果(実績)	決算(千円)	評価	担当課
①	学校ICT活用事業	学校ICT支援員を配置し、教員のICT活用指導力の向上を図る。	次のとおり研修等を実施した。 ・学校ICT支援員との相談・研修 530回 ・学校ICT活用推進連絡協議会での実践交流 3回 ・教育委員会からの学校訪問 各校年2回 ・教育改革推進室から学校への研修会 39回	20,874	達成	教育改革推進室
②	学校支援事業	各校の教育課題に応じて、特色ある教育活動を推進する。	次のとおり、配置した。 学校生活支援員 21人(対象校9校) 非常勤学習指導員 65人(対象校22校) スクール・サポート・スタッフ 21人(対象校15校)	77,051	達成	教育指導課
未達成となった理由 (未達成のみ記入)						
工夫・努力したこと		学校現場の課題を聞き取り、その課題を解決するために配置を行った。				
課題・今後の取組		県費職員の加配配置状況を考慮し、次年度も学校の課題解決のために適切な配置を行っていく。				

★(10) 日本語指導が必要な児童生徒への支援

日本語指導が必要な児童生徒が多数在籍する学校では、日本語教室の開設、日本語指導担当教員の配置、母語通訳のできる指導員や支援員の巡回により、学習指導、生活指導、教育相談等を行い、「やさしい日本語」視点も取り入れながら学校生活を円滑に送れるよう支援します。

主な事業又は取組		目的	成果(実績)	決算(千円)	評価	担当課
①	外国人児童生徒教育サポート事業	日本語指導が必要な児童生徒が基本的な日本語コミュニケーション能力を獲得し、基礎的・基本的な学力を身に付け、卒業後の進学・就職等将来への展望をもつことができるよう支援する。	サポート指導員(ポルトガル語)、サポート支援員(ポルトガル語、スペイン語、タガログ語、中国語)および、学習指導員、初期指導員を派遣し、支援を行った。	23,298	達成	教育指導課
未達成となった理由 (未達成のみ記入)						
工夫・努力したこと		新型コロナウイルス感染症の影響もあり発出文書の翻訳作業が増え、各サポート支援員への負担が大きくなったため、翻訳作業の分担や早期対応を意識し対応した。				
課題・今後の取組		海外から直接転入してくる児童生徒、特別支援を要する児童生徒の数が増えている。その結果、初期指導や医療受診、保護者対応等、緊急派遣対応の件数が増加しており、指導員の数が十分ではないのが現状である。そのため、サポート支援員等の支援体制の強化・連携の充実を図っていく。				

教育大綱・基本目標	2 子どもの自立に向けて「生きる力」を育む教育を推進します
施策の基本的方向	3 確かな学力の育成

■指標(進捗管理目標)対象事業

★(11) 各学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントの実施					
子どもたちの姿や地域の現状の把握を基に、各教科等の教育目標を実現するために、相互の関係で捉え、教科横断的な視点で教育内容を組織的に配列していきます。また、「探究的な見方・考え方を働かせる」問題解決型の発展的学習等、教育内容の質の向上に向けて、教育課程の編成、実施、評価・改善を図る一連のPDCAサイクルを確立します。					
指 標(進捗管理目標)	現状値	R7年度 目標値	R3年度 目標値	R3年度 実績値	事業の評価
全国学力学習状況調査・国語の正答率と本市正答率との比較(全国学力・学習状況調査)	小 -2.8%	前年度比 +0.5%	小 -2.3%	小 -5.7%	D
	中 -2.8%		中 -2.3%	中 -1.6%	A
全国学力学習状況調査・算数(数学)の正答率と本市正答率との比較(全国学力・学習状況調査)	小 -1.6%	前年度比 +0.5%	小 -1.1%	小 -3.2%	D
	中 -0.8%		中 -0.3%	中 -0.2%	A
主な事業又は取組	目的	成果(実績)		決算(千円)	担当課
① 心輝く学校づくり推進事業	子どもたちに未来をたくましく生きる力を育成すべく、各学校にて重点的で工夫ある取組を実践し、一人ひとりの子どもの夢や希望を実現させる「心輝く学校づくり」を進める。	全小・中・義務教育学校35校が、校内授業研究会や文化芸術活動等、各校の実状に応じた取組を実施した。		17,999	教育指導課
低評価となった理由(D評価のみ記入)	小学校・義務教育学校[前期課程]での全国学力学習状況調査・国語と算数の正答率と本市正答率の差が拡大したため。				
工夫・努力したこと	最大限の感染防止対策をしたうえで、全小・中・義務教育学校において、可能な限り各校のねらいや課題に応じて特色ある教育活動を実施したが、感染症拡大防止の観点から様々な事業及びそれに関わる講師招聘を取り止めることとなった。				
課題・今後の取組	「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～『学校の新しい生活様式』～」等を踏まえながら、各校のねらいや課題に応じて、特色ある教育活動を推進し、より確かな学力の定着とたくましく心豊かな児童生徒を育成する学校づくりを進めていく。				

★(13) 英語教育の推進					
今後ますます進展するグローバル化に対応できる資質や生き方を身につけた児童生徒の育成のため、小学校から中学校までの9年間の英語教育を推進します。小学校学級担任及び中学校英語科教員のより一層の指導力向上に努め、互いの考えや気持ちを伝えあう対話的な言語活動の充実等の授業改善に取り組みます。					
指 標(進捗管理目標)	現状値	R7年度 目標値	R3年度 目標値	R3年度 実績値	事業の評価
CEFR(セファール)A1レベル相当以上の英語力を有すると思われる中学3年生生徒の割合	38.5%	50.0%	40.0%	39.2%	A
主な事業又は取組	目的	成果(実績)		決算(千円)	担当課
① 英語教育推進事業	小学校から中学校までの9年間を通して、特色ある英語教育を推進し、児童生徒の国際コミュニケーション能力の基礎を培うとともに、豊かな国際性を育む。	小中連携による情報交換や授業公開を通して、9年間の一貫した豊かな言語活動を展開した。学級担任と日本人英語講師(JTE)/外国人英語講師(ALT)とのチーム・ティーチングを行った。英語指導力向上のための教職員研修を年5回開催した。		69,087	教育指導課
低評価となった理由(D評価のみ記入)					
工夫・努力したこと	ALTやJTEの配置により、英語学習の初期段階に「生きた英語」に触れることで、聞く力やコミュニケーションをとろうとする態度の育成につながった。また一人一台端末の活用により、英語を使用する目的・場面・状況を効果的に設定することができ、学習成果をより効果的に発表することができるようになった。				
課題・今後の取組	全小・中・義務教育学校へのALTの配置、高学年へのJTEの配置、小・中・義務教育学校教職員対象の研修の実施により、英語授業力の向上、言語活動を充実させた授業改善を図っていく。				

★(15) 教育の情報化の推進

情報化やグローバル化等の急激な社会的変化の中で、子どもたちが未来の創り手となるために必要な資質・能力を身につけられるよう、学校ICT環境整備と教員のICT活用指導力の向上を図ります。また、校務の情報化を推進し、教員が児童生徒に向き合う時間を増やし、教育活動の質の向上をめざします。

指 標(進捗管理目標)	現状値	R7年度 目標値	R3年度 目標値	R3年度 実績値	事業の評価
授業にICTを活用して「資料・意見等の提示」、「学習用ソフトウェアを活用した協働的な学習」ができると答えた教員の割合(学校における教育の情報化の実態等に関する調査)	53.7%	100.0%	63.0%	73.1%	A

主な事業又は取組	目的	成果(実績)	決算(千円)	担当課
① 学校ICT環境整備事業	全ての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びを実現する。	個別最適な学びと協働的な学びの実現のため、次のとおり実施した。 ・授業支援ソフト「ロイロノート・スクール」の導入・活用による授業改善 ・経産省EdTech補助金を活用したAI型ドリル「Qubena」の導入検証事業 ・小学校1年生端末・教員用端末整備に向けた国庫補助の申請	11,511	教育改革推進室
② 【再掲】学校ICT活用事業	学校ICT支援員を配置し、教員のICT活用指導力の向上を図る。	教員の指導力の向上を図るため、次のとおり研修等を実施した。 ・学校ICT支援員との相談・研修 530回 ・学校ICT活用推進連絡協議会での実践交流 3回 ・教育委員会からの学校訪問 各校年2回 ・教育改革推進室から学校への研修会 39回	20,874	教育改革推進室
低評価となった理由(D評価のみ記入)				
工夫・努力したこと	GIGAスクール構想における一人一台端末環境の初年度であったため、ルール作り、活用研修等細やかな支援が行えるよう配慮し事業を行った。			
課題・今後の取組	教員間格差・学校間格差が徐々に表れてきたため、よりきめ細やかな研修支援体制の構築と、より効果的な活用が推進できるよう取組を進めていく。			

■その他事業

★(12) 言葉の力の育成

言語に関する能力は全ての教科の基本であることから、思考力・判断力・表現力等を育む言語活動(読む力、書く力、聴く力、話す力)の充実を図り、自分の考えや意見を表現する活動を取り入れ、正しい日本語の書き方や論理的な思考を育みます。また、学校司書の配置や学校・園の蔵書整備等を進める等の学校図書館を活用した取組及び図書館との連携により、言葉の力の育成を図ります。子どもたちが幼児期から読書習慣を身に付けることができるように、読書環境の整備を進めます。

主な事業又は取組	目的	成果(実績)	決算(千円)	評価	担当課
① 学校図書館教育の推進	子どもたちに言語に触れる機会となる読書習慣を身につけさせ、また、授業等での書籍の活用を効果的に進めていくために学校司書との連携など必要な環境を整備し、子どもたちの言葉の力の育成を図る。	全小・中・義務教育学校に学校司書を配置した。また、学校司書連絡協議会を2回開催し、実践交流や情報共有等を行った。	13,729	達成	教育指導課
未達成となった理由(未達成のみ記入)					
工夫・努力したこと	学校司書連絡協議会にて、各校での実践交流を行うことで、各校の学校図書館運営を見直す機会とした。さらに、改善案やアイデア等を取りまとめ、フィードバックを行った。				
課題・今後の取組	学校司書のスキルアップが必要なため、実技研修等を取り入れていく。				

★(14) 理科教育の推進					
高い専門的な知的資源を有する長浜バイオ大学と連携し、実験観察等の体験的学習活動を通して、児童生徒の自然科学への興味・関心・知的欲求を高め、探究心と問題解決能力を育成する。小・中・義務教育学校における理科教育指導の一層の向上と充実を図る。感性豊かな探究心や問題解決能力、科学的な見方や考え方を育成します。					
主な事業又は取組	目的	成果(実績)	決算(千円)	評価	担当課
① 「長浜学びの実験室」実施事業	児童生徒の自然科学への興味・関心を高め、探究心と問題解決能力を育成する。小・中・義務教育学校における理科教育指導の一層の向上と充実を図る。	長浜バイオ大学内「長浜学びの実験室」において、大学教員指導のもと、69講座を実施した。	1,705	達成	教育指導課
② 親子科学実験講座事業	児童生徒の自然科学への興味・関心や知的好奇心を高める。	実験講座には、120名程度の申し込みがあった。しかし、令和3年8月6日に滋賀県全域において「まん延防止等重点措置」が適用されたため、実験講座の開催を中止した。	47	未達成	教育指導課
未達成となった理由(未達成のみ記入)	予定していた「長浜学びの実験室」での実験講座を中止したが、実験講座の申込者には、大学生のボランティアが行った科学実験の様子の動画配信を行った。				
工夫・努力したこと	実験講座が開講できるように、新型コロナウイルス感染拡大防止対策(昼食をとらない、アクリル板の設置、手洗い手指消毒の声かけ等)を徹底した。				
課題・今後の取組	事業立ち上げ時に購入した実験器具(顕微鏡等)の買い替えについて検討する。また、小学校教員の理科指導力向上を図るため、教員向け理科教育研修会を実施する。				

### ◇事務評価委員会所見等

(11) 各学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントの実施	【教育指導課】
事務評価委員会の所見	教育委員会の今後の取組等
市内には県内で唯一の義務教育学校が2校あり、9年間を見通したカリキュラムの検討をされていると思う。9年間の学びの様子を見ながら、小中の重複した内容や小中の先生たちのお互いの学びの内容がもっと見えるようになれば、見通しを持った学びができるのではないかと。義務教育学校での取組等を生かしていただけるようにしていただきたい。	9年間を見通した教育は大変意義があり、小中のつながりは大切だと考えています。もう少し改善していける点もあるため、義務教育学校の成果と課題を十分検証し、よさを広げていくことは必要であると考えています。
事務評価委員会の所見	全国学力学習状況調査【教育指導課】
ほとんどの子どもたちが、全国学力・学習状況調査のようなページがたくさんあるテストに慣れておらず、初めて受けるテストに戸惑いがあると思うので、事前に子どもたちへのテスト様式の情報提供や過去問題に触れる機会などがあれば、テストに臨む気持ちが少しは変わるのではないかと。	学校によって様々ですが、市内には、子どもたちが全国学力・学習状況調査の様式に慣れることができるよう、事前に過去問題や県教委作成のガッテンプリント等を活用している学校もあります。
(12) 言葉の力の育成	学校図書館教育の推進【教育指導課】
事務評価委員会の所見	教育委員会の今後の取組等
学校司書について、何校かを兼務されている学校があると聞いた。学校に学校司書がいることで、子どもたちも図書室に足を運ぶと思うので、人が集まらず難しいとは思いますが、各校一人ずつの学校司書の配置をお願いしたい。	学校司書は、資料の管理や図書館内の環境整備はもちろんのこと、学習指導に必要な資料の準備や授業の支援など、今や学校にとってなくてはならない存在であると認識しており、今後も学校司書を全学校に配置していきたいと考えています。
図書館司書の配置について、正規職員による体制が必要ではないかと。	正規職員を、すべての学校に配置できることが理想ではありますが、まずは人材を確保し、全校配置を目指していきたいと考えています。
(15) 教育の情報化の推進	学校ICT環境整備事業【教育改革推進室】
事務評価委員会の所見	教育委員会の今後の取組等
新型コロナウイルスの感染拡大により、子どもたちが長い期間、学校に行けなかった時期があり、周りの友達の勉強が進んでいることに不安を覚えていたことがあった。こうしたことを解消するためにも、AI型ドリル等の活用を是非進めていただきたい。	学習用端末を用いてAI型ドリルソフトや授業支援ソフトを活用し、日常の教育活動の充実や非常時の学習保障、さらに個々の児童生徒のニーズに合わせた学習支援を行うことができるため、今後も、機器の整備やソフトの充実、これらの活用が進むような施策を行っていきます。
子どもたちが学校でどのようにタブレット端末を活用しているかが分かって、もっと関心を持って子どもと接することができると思うので、保護者向けの情報発信をしていただきたい。	家庭の理解や協力を得ることは、学習用端末の活用に欠かせないと考えている。学習参観などに親子でタブレットと触れ合う機会を持ち、保護者の理解を深める取組をしている事例もあるため、教育委員会からの発信を行うとともに、各校により事例を紹介し実践に努めていきます。

教育大綱・基本目標	2 子どもの自立に向けて「生きる力」を育む教育を推進します
施策の基本的方向	4 豊かな心の育成

■指標(進捗管理目標)対象事業

★(16) キャリア教育の推進による自立心の涵養						
社会的自立・職業的自立に向けて、児童生徒一人ひとりのキャリア形成を支援するために教科・科目、総合的な学習の時間、特別活動等をはじめ教育活動全体を通じて発達段階に応じた指導を組織的・系統的に行います。また、勤労観・職業観を育成するため、職場見学や職場体験等の体験活動や進路指導の充実に努めます。						
指 標(進捗管理目標)		現状値	R7年度 目標値	R3年度 目標値	R3年度 実績値	事業の評価
「職場体験で自分の良さや適性等を発見したり、確認したりできた」と答えた割合(中学生チャレンジウイーク事後アンケート)		89.0%	95.0%	90.0%	事業実施なし	D
主な事業又は取組	目的	成果(実績)			決算(千円)	担当課
① キャリア教育推進事業	自分の進路を選択できる力や将来社会人として自立できる力を育てる。	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、職場での体験を中止した。			437	教育指導課
② 発達段階に応じたキャリア教育の推進	自立して生きていくために必要な能力や態度を育成する。	小学校及び義務教育学校[前期課程]の児童の各発達段階に応じた職場訪問や社会見学等をのべ260回実施した。			0	教育指導課
低評価となった理由(D評価のみ記入)	新型コロナウイルス感染状況の見通しが立たないため、職場での体験はやむを得ず中止したため。					
工夫・努力したこと	講師を招いて勤労の意義について講話を聴いたり、体育館にブースを設置し、体験を予定していた職場から現場で働く方を招いて話を聞くなどした。小学校では感染対策を取ったうえで滞在時間や内容を変えながら校外学習を実施した。					
課題・今後の取組	実習の事前指導段階で、勤労の意義について考えさせる必要がある。また、実習を通して新たな学びを得るためには、社会の厳しさをしっかり理解させ、どのような心構えで取り組ませるかについて、後のキャリア育成につなげられるように進めていく。					

★(17) 道徳教育・人権教育の推進						
道徳教育の充実を図り、学校の教育活動全体を通して他人を思いやる温かい心を育むとともに、わがまち・長浜を愛する子どもの育成を図ります。さらに地域と連携し、学んだことを生かして行動できる道徳的実践力を高めます。また、あらゆる教育活動を通じて子どもたちの自尊感情を高めるとともに、人権についての正しい理解と認識を培い、人権を尊重する実践的な態度の育成に努めます。						
指 標(進捗管理目標)		現状値	R7年度 目標値	R3年度 目標値	R3年度 実績値	事業の評価
「自分には、よいところがある」と答えた割合(全国学力・学習状況調査)		小 81.6%	小 87.0%	小 83.0%	小 76.5%	A
		中 76.2%	中 82.0%	中 78.0%	中 77.9%	A
主な事業又は取組	目的	成果(実績)			決算(千円)	担当課
① 道徳教育の推進	道徳科及び全教育活動における道徳教育の充実を図る。	長浜市道徳教育研究会をオンライン開催し、市内全校ほぼ全ての教職員が参加した。また、道徳教育推進教師連絡協議会をオンライン開催し、各校の道徳教育推進教師による実践交流等を行った。			68	教育指導課
② 人権教育の推進	子どもの自尊感情を高め、確かな人権感覚を育成する。	市人権教育研究会をオンラインで開催し、講演会や分科会に教職員が参加することで人権教育の実践力を養った。また、3推進学区で公開授業(長浜東:1回、虎姫:2回、木之本5回)や研修会(長浜東:5回、虎姫:3回、木之本2回)を実施した。			410	教育指導課
低評価となった理由(D評価のみ記入)						
工夫・努力したこと	オンライン開催にしたことにより、例年人数制限をしていた研究会に、多くの教職員が参加できるようになった。また、新型コロナウイルスの情勢を見つつ、授業参観や研修を行い、各校園の取組や教育上の諸課題の共通理解を図った。					
課題・今後の取組	市道徳教育研究会で資料のやりとり等に課題が見受けられたので、各校でスムーズなやりとりができるよう準備を入念に行う。各推進学区において、生活や学力の状況を把握するための調査(アンケート)を行い、子どもの自尊感情の高まりを分析する。市人権教育研究会にて学んだことを日々の教育実践に生かしていく。					

★(18) 地域学習や文化芸術活動等の体験活動を通じた豊かな感性の醸成					
本市の豊かな自然や歴史、伝統文化等、様々な地域資源を生かした教育活動や体験活動を推進し、豊かな心や感性を培うとともに、郷土に対する誇りと郷土愛を育みます。					
指 標(進捗管理目標)	現状値	R7年度 目標値	R3年度 目標値	R3年度 実績値	事業の評価
「今住んでいる地域の行事に参加している」と答えた割合(全国学力・学習状況調査)	小 83.3%	小 88.0%	小 84.0%	小79.0 %	A
	中 67.5%	中 72.0%	中 68.0%	中57.7 %	B
主な事業又は取組	目的	成果(実績)		決算(千円)	担当課
① 地域学習や伝統文化等の体験活動の充実	子どもの豊かな心や感性を培い、郷土に対する誇りと郷土愛を育む。	各地域の特色を生かし、市内29校で伝統文化体験活動等を行った。		0	教育指導課
低評価となった理由(D評価のみ記入)					
工夫・努力したこと	地域の伝統文化学習を積極的に学校に取り入れることで、学校から地域に出て活動をする学校も出てきている。				
課題・今後の取組	多様な体験ができるよう事業等を広く周知していく。				

★(19) グローバルな視点での教育活動の推進						
国際感覚豊かな児童生徒の育成を図るため、多文化共生の観点から外国や日本の伝統文化に対する理解を深めます。また、環境問題について、地球温暖化やオゾン層破壊、海洋汚染等のグローバルな問題をはじめとして、あらゆる地域の環境保全に関心をもつとともに、SDGsの視点も取り入れた行動がとれるよう、地域の特色を生かした体験的な環境教育を推進します。						
指 標(進捗管理目標)	現状値	R7年度 目標値	R3年度 目標値	R3年度 実績値	事業の評価	
「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたい」と答えた割合(全国学力・学習状況調査)	小 66.9%	小 72.0%	小 68.0%	調査項目がなかった	-	
	中 58.7%	中 64.0%	中 60.0%	調査項目がなかった	-	
主な事業又は取組	目的	成果(実績)		決算(千円)	評価	担当課
① 英語キャンプの実施	児童生徒の英語での発信力を高める。	市内児童生徒26名の参加のもと、ALTとの英語による活動を通して、英語発信力の向上を図った。		342	達成	教育指導課
未達成となった理由(未達成のみ記入)						
工夫・努力したこと	英語キャンプでは、既習内容の活用方法の工夫やタブレット端末の活用などで、日頃の学習成果を試す機会とした。					
課題・今後の取組	全国学力・学習状況調査の英語調査については3年に1回実施されるため、令和3年度は実績値がなく、指標による評価はできなかった。将来に生かせる英語力の育成のため、さらなるオンライン活用やより実践的な活動展開を構築することにより、事業の充実を図っていく。					

★(20) 情報モラル教育の推進					
<p>児童生徒の携帯電話やタブレット等の利用の拡大、使用方法の変化に伴う、SNS等を通じたトラブルを防ぐため、学校・家庭・地域社会が一体となった取組を進められるよう、学校では、企業等に協力を求めながら情報技術やサービス等の最新の情報の入手に努め、児童生徒、家庭に対して情報機器の正しい使い方の知識を身に付けるための啓発を進めます。健康を害するような行動について医療の面からの啓発活動も学習活動に取り入れながら情報モラルを醸成する教育を推進します。</p>					
指 標(進捗管理目標)	現状値	R7年度 目標値	R3年度 目標値	R3年度 実績値	事業の評価
情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度を身につけさせるための研修会や授業を行った学校の割合	—	小中学校ともに 100.0%	小中学校ともに 100.0%	小 100.0 % 中 100.0 %	A A
主な事業又は取組	目的	成果(実績)		決算(千円)	担当課
① 情報モラル教育の推進	情報機器やインターネットの利用によるトラブルの被害者にも加害者にもならない児童生徒を育成する。	各校が独自で実施しているネット活用教室などの予定、実施状況を確認し、市内の児童生徒の情報端末の所持状況や学校でのSNS等を介するトラブルの発生状況、オンラインゲームに関するトラブルなどについて情報提供を行った。		0	教育指導課
低評価となった理由 (D評価のみ記入)					
工夫・努力したこと	長期休業前には警察とも連携し、児童生徒が犯罪に巻き込まれたり、知らずに触法となる行為に及ぶことがないように、各校を通じて児童生徒、保護者に対して啓発を行った。				
課題・今後の取組	オンラインゲームが浸透し、トラブルや家庭内の問題となっていることについても、啓発を進めていく。				

## ■その他事業

★(19) グローバルな視点での教育活動の推進					
<p>国際感覚豊かな児童生徒の育成を図るため、多文化共生の観点から外国や日本の伝統文化に対する理解を深めます。また、環境問題について、地球温暖化やオゾン層破壊、海洋汚染等のグローバルな問題をはじめとして、あらゆる地域の環境保全に関心をもつとともに、SDGsの視点も取り入れた行動がとれるよう、地域の特色を生かした体験的な環境教育を推進します。</p>					
主な事業又は取組	目的	成果(実績)		決算(千円)	担当課
① 環境教育の推進	環境保全の体験活動を通して、環境に対する理解と関心を高め、持続可能な社会の構築に向けて主体的に取り組める子どもを育成する。	各校で「ごみゼロの日」「びわ湖の日」「県下一斉清掃の日」等の環境保全についての体験活動および学習活動を行った。		0	達成 教育指導課
未達成となった理由 (未達成のみ記入)					
工夫・努力したこと	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のうへ、全小中義務教育学校において、校地の環境整備や通学路の清掃等、身近な環境保全活動に取り組んだり、教科学習にて地球規模からの環境問題について学習したりした。				
課題・今後の取組	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に配慮しながら、「びわ湖の日」等を利用して、校地の環境整備、清掃ウォーキング、通学路の清掃等、身近な環境保全活動に取り組んだり、教科学習にて地球規模からの環境問題について学習等を行う。				

## ◇事務評価委員会所見等

(16) キャリア教育の推進により自立心の涵養	キャリア教育推進事業【教育指導課】
事務評価委員会の所見	教育委員会の今後の取組等
<p>職場体験は、子どもたちが夢を持てる、将来の希望を持てるということにもつながると思うので、再開できるのであればぜひ再開していただきたい。</p>	<p>中学校2年生で経験する5日間の職場体験は、働く大人の姿にふれ、自分の生き方を考えるきっかけとなっている。社会で自分がどのような役割を果たせるかという将来の生き方(キャリア)を考えるためには、自分の進路を選択できる力や自立できる力が不可欠であり、その力を育てる職場体験の場は貴重だと考えています。</p> <p>また、今般の新型コロナウイルス感染症の影響は、生徒や事業所にとっても大きく、計画通りに実施できているところが少ない状況ですが、受け入れていただく事業所とも相談を進め、再開できる状況に備えていきます。</p>
(18) 地域学習や文化芸術活動等の体験活動を通じた豊かな感性の醸成	地域学習や伝統文化等の体験活動の充実【教育指導課】
事務評価委員会の所見	教育委員会の今後の取組等
<p>地域行事に参加している子どもは多いが、地域や社会を良くするために何をすべきか考えることと結び付いていないとのことであるが、これら結び付けるためには何らかの対策を取る必要があるのではないかと考えています。</p>	<p>地域行事等に参加した後、子どもたちが自分の生活にどのようにつながっていくことができるのか、各校で指導していただいています。このことが重要であり、将来長浜のことを考えるきっかけになればと考えています。</p>

教育大綱・基本目標	2 子どもの自立に向けて「生きる力」を育む教育を推進します
施策の基本的方向	5 健やかな体の育成

■指標(進捗管理目標)対象事業

★(21) 体力の向上と健康の保持増進					
<p>子どもたちの体力向上を図るために、日々の体育科学習の授業改善を推進します。また、運動に対する愛好的態度の向上をめざし、学校での休み時間等に進んで運動ができるよう取り組みます。</p> <p>中学校の部活動では、専門性をもった指導員の配置や支援員の派遣を行い、生徒の競技力等の向上を図ります。</p> <p>さらに、健全な生活習慣を身に付けるために、健康診断や調査に基づき、一人ひとりの実態に応じた指導・支援を行うとともに、「早寝・早起き・朝ごはん」運動等の取組を推進します。</p>					
指 標(進捗管理目標)	現状値	R7年度 目標値	R3年度 目標値	R3年度 実績値	事業の評価
新体力テストの体力合計得点 ・小学5年生	男子:50.99点	男女ともに 55.00点	男子:51.79点	男子:50.71点	A
	女子:52.81点		女子:53.24点	女子:52.03点	A
新体力テストの体力合計得点 ・中学2年生	男子:41.86点	男子:43.00点	男子:42.08点	男子:41.68点	A
	女子:48.32点	女子:50.00点	女子:48.65点	女子:48.47点	A
主な事業又は取組	目的	成果(実績)		決算(千円)	担当課
① 地域指導者を活用した中学校部活動支援の推進	専門的な指導ができる「部活動指導員」又は「部活動支援員」を派遣し、指導の充実を図る。	専門的技術指導が行える部活動指導員を4校(7部活動)、部活動支援員を4校(4部活動)に派遣し、生徒の競技力向上と教職員の負担軽減を図った。		1,366	教育指導課
② マイ体力アップ事業	子どもたちの体力向上と運動習慣の確立を図る。	対象者1,048人中 「Go for it」カード4枚分(80日分)が達成できた児童294人(達成率:28.1%)		0	すこやか教育推進課
③ 児童生徒健康診断の実施	児童生徒の健康を管理する。	次のとおり実施した。 尿検査 対象者数:9,611人 受検者数:9,567人 受検率:99.5% 心電図検査 対象者数:3,155人 受検者数:3,140人 受検率:99.5% 結核精密検査 対象者数1回目(7月):8人 受検者数:8人 受検率:100% 対象者数2回目(1月):5人 受検者数:5人 受検率:100%		7,255	すこやか教育推進課
低評価となった理由 (D評価のみ記入)					
工夫・努力したこと	児童生徒の健康診断の心電図検査において未受検者が、近隣学校でも受験可能となるような環境づくりを行った。また結核対策委員会においては、高蔓延国に既往歴があったり、BCG未接種の児童生徒に対しての協議を行い、精密検査が必要と判断された場合には、長浜病院と連携して、児童生徒の健康をフォローしてきた。				
課題・今後の取組	児童生徒健康診断の実施において、結核精密検査は100%実施できたが、尿検査と心電図検査については、100%ではなかった。家庭的な背景による検査未検の児童生徒へのフォローが課題である。引き続き、心電図検査は該当学校だけでなく近隣の学校での受検も可能にし受けやすい環境を整える。また、尿検査についても、同様に対応し100%の実施を目指す。子どもたちの体力向上に向けて、マイ体力アップ事業の効果的な実施が図れるよう、より良い取組を推進していく。				

★(22) 食育の推進

学校給食を通じて、子どもたちが「食」に関心を持ち、栄養バランスや食の安全性等について正しい知識を身に付け、自分自身の健全な食生活について考えることができる力を養います。また、食文化や食に対する考え方が多様化する中で、様々な食材に関心をもつことができるよう、学校・園、家庭、地域が連携しながら食育の推進に取り組みます。  
食物アレルギーに関しても、正しい知識や理解をもつことができるような取組を進めます。

指 標(進捗管理目標)	現状値	R7年度 目標値	R3年度 目標値	R3年度 実績値	事業の評価
バランスのとれた食事をするのは大切だと思っている児童・生徒の割合（食育アンケート）	小5 98.0%	小中学校ともに 100.0%	小中学校ともに 100.0%	小5 98.2%	A
	中2 99.1%			中2 99.2%	A
朝食を毎日食べる児童・生徒の割合（食育アンケート）	小5 90.6%	小5 93.0%	小5 91.0%	小5 89.6%	A
	中2 86.1%	中2 90.0%	中2 88.0%	中2 85.7%	A

主な事業又は取組		目的	成果(実績)	決算(千円)	担当課
①	安全・安心な学校給食の提供	徹底した衛生管理による施設運営のもと、安全で栄養バランスのとれた学校給食を提供する。 また、学校給食費公会計推進により、透明性・公平性の向上とともに、安定した給食提供を図る。	衛生管理の徹底と施設・設備の整備を行い、給食中止や配送の遅延なく、195回の栄養バランスのとれた学校給食を提供することができた。 また、学校給食費を公会計に移行し、市の歳入歳出予算として徴収・管理を行った。	949,982 (うち公会計 505,684)	すこやか 教育推進 課
②	食物アレルギー事故防止研修	給食時の食物アレルギー対応の現状と課題を共有し、専門医からの指導を受けることでアレルギー事故の未然防止を図る。	アレルギー対象者へは、毎月予定材料表と除去・代替食材表を送付し、情報共有を図った。給食センターからの誤配送等の事故はなかったが、校園での配膳ミス等による事故が2件あった。	20	すこやか 教育推進 課
③	学校給食を通じた食育の推進	子どもたちが健全な食生活を自ら営むことができる知識及び態度を養えるようにする。	毎月の献立表や「食育の日」の指導、毎日のランチメッセージ、給食時間の指導を通して、給食に使用されている食材や行事食の由来、食に関する情報を提供した。	0	すこやか 教育推進 課
低評価となった理由 (D評価のみ記入)					
工夫・努力したこと		新型コロナウイルスによる学校の臨時休業における給食対応(数量調整、献立の変更、フードバンク提供)を行い、食材を無駄にしないよう取り組んだ。 コロナ禍において、従来のような食育指導が難しい面もあるため、動画を作成したりICT機器を使用するなど指導手法を工夫した。			
課題・今後の取組		食物アレルギー申請品目が増加しているため、保護者、校園、給食センターが連携を密にし、誤食事故を起こさないよう取り組む。 また、子どもが食に対して興味をもてるように、給食提供だけでなく、栄養教諭を中心に食に関する指導の機会を増やしていく。			

## 基本目標3

学校・家庭・地域のつながりを深め、  
地域全体の教育力の向上をめざします

事業No.に★がついている事業は外部評価の対象です。

教育大綱・基本目標	3 学校・家庭・地域のつながりを深め、地域全体の教育力の向上をめざします
施策の基本的方向	6 学校・家庭・地域による教育環境づくり

■指標(進捗管理目標)対象事業

★(23)「長浜子どものちかい」「長浜子育て憲章」の推進								
長浜の未来を切り拓き、次代を担う子どもたちを育て導くために、「めざす子ども像」を掲げ、「長浜子どものちかい」「長浜子育て憲章」を子育て・教育の基盤に据えて、学校・家庭・地域及び関係機関、団体等の連携による教育環境づくりの取組を推進します。								
指 標(進捗管理目標)		現状値	R7年度 目標値	R3年度 目標値	R3年度 実績値	事業の評価		
「長浜子どものちかい」「長浜子育て憲章」の保護者・地域・各団体への周知、啓発回数		91回	100回	93回	117回	A		
主な事業又は取組		目的			成果(実績)		決算(千円)	担当課
①	「長浜子どものちかい・長浜子育て憲章」推進事業	「長浜子どものちかい・長浜子育て憲章」が子育て・教育の基盤として定着するよう、各校園、保護者、地域、関係機関・団体と連携し、周知・啓発に継続して取り組む。			これまでからの普及・啓発に加え、啓発の対象・方法を拡大し、啓発回数が前年度より24回増加した。平成29年度から実施している絵手紙については、過去最高の1,887点の応募があった。入賞作品については、展示場所を3か所から6か所に増やし展示を行った。		122	教育改革推進室
低評価となった理由(D評価のみ記入)								
工夫・努力したこと		新たにすべての幼稚園、保育園、認定こども園に園児版の子どものちかいを配布したほか、各校での取組事例を紹介した。また、教育委員会のFacebookや子育て応援アプリ「ながまるキッズ！」での啓発取組を新たに行った。就学前(5歳児)の保護者にアンケートを実施し、より早い段階での啓発・周知に取り組んだ。実施にあたっては、電子申請システムにより利便性の向上、ペーパーレス化を図った。						
課題・今後の取組		市民の認知度がまだ低いことから、学校や園以外への周知を工夫していく必要がある。周知にあたっては、子育て世代への周知が効果的であることから、アンケート結果を活用し効果的に進めていく。						

★(24) 学校運営協議会の推進								
「地域とともにある学校」の考えのもと、各校が学校運営協議会と連携を図りながら、保護者や地域の人の参画を得、その意見が反映される学校運営を進めます。また、学校・家庭・地域社会が一体となって、よりよい教育の実現に向けて取り組み、地域の創意工夫を生かした特色ある学校づくりを進めます。								
指 標(進捗管理目標)		現状値	R7年度 目標値	R3年度 目標値	R3年度 実績値	事業の評価		
地域とともに進めるよりよい学校づくり満足度(長浜市民満足度調査)		3.39点	3.50点	3.40点	3.24点	A		
主な事業又は取組		目的			成果(実績)		決算(千円)	担当課
①	学校運営協議会の推進	各校園の学校運営協議会の取組について情報交換や交流を深め、活動充実を図る。			長浜市学校運営協議会委員等代表者を、文部科学省・全国コミュニティ・スクール連絡協議会・三鷹市主催の「全国コミュニティ・スクール研究大会in三鷹」に兼ねる形で開催し、36校園からオンラインにより参加した。また、各学校の特色ある取組について冊子にまとめ、各協議会に配布した。		2,003	教育指導課
低評価となった理由(D評価のみ記入)								
工夫・努力したこと		新型コロナウイルス感染症の感染拡大が懸念される中、オンライン開催という形とし、先進地の事例等に触れることができた。						
課題・今後の取組		各校園の取組の交流等ができるように工夫し、小中のつながりのある運営等を推進していく必要があるため、取り組んでいく。						



教育大綱・基本目標	3 学校・家庭・地域のつながりを深め、地域全体の教育力の向上をめざします
施策の基本的方向	7 子育て支援体制の充実

■指標(進捗管理目標)対象事業

★(27) 保育サービスの充実					
社会情勢や子育てに対する意識の変化等による保育ニーズが多様化している中、全ての就学前の子どもに、その発達や家庭状況に応じた教育・保育を提供するため、待機児童の解消に繋げるとともに、子どもや子育て家庭に必要かつ良質なサービスの提供及び教育の充実に向けた、環境整備を図ります。					
指 標(進捗管理目標)	現状値	R7年度 目標値	R3年度 目標値	R3年度 実績値	事業の評価
保育所・認定こども園(長時部)の待機児童数	35人	0人	15人	13人	A
主な事業又は取組	目的	成果(実績)		決算(千円)	担当課
① 子育て支援事業	園児及び地域の未就園児とその保護者を対象に、保護者同士の交流の場を提供したり子育て相談を行い、子育てへの安心感や親としての喜びや充実感を育てる。	市立園20園に子育て専門相談員を配置し、園児及び地域の未就園児の保護者に子育て相談を実施した。		4,384	幼児課
② 保育人材確保対策事業	保育の担い手となる保育士等の人材を確保することにより、待機児童の解消につなげる。	保育士確保対策関連補助金の支給 ・長浜市保育士等奨学金返還支援金 27人 ・長浜市保育士等宿舍居住支援事業補助金 11人 ・長浜市保育士等の再就職定着応援金 3人		9,360	幼児課
低評価となった理由(D評価のみ記入)					
工夫・努力したこと	保育人材確保対策事業にかかる補助金は、令和4年4月1日採用者をもって失効予定であったが、待機児童数の解消には至っておらず、公立私立ともに保育人材が不足していることから、これらの補助金を2年間延長し、事業を継続することとした。				
課題・今後の取組	部分休業取得職員の増加や、フルタイム職員の不足によるシフト勤務の負担が大きくなっている。退職することなく勤務できるよう働きやすい職場環境を整備する必要があるため、取組を進めていく。				

(28) ひとり親家庭への支援					
母子・父子自立支援員を子育て支援課に配置し、生活全般の相談を行います。また、同じ悩みを抱える人の交流や相談の場について紹介します。					
指 標(進捗管理目標)	現状値	R7年度 目標値	R3年度 目標値	R3年度 実績値	事業の評価
ひとり親家庭の相談件数	2,122件	2,500件	2,200件	2,354件	A
主な事業又は取組	目的	成果(実績)		決算(千円)	担当課
① ひとり親家庭支援事業	ひとり親家庭の生活の安定と向上のための支援を行う。	日々の窓口、電話対応について相談者に十分に配慮して、ひとり親家庭の生活および精神的安定につなげた。		24	子育て支援課
低評価となった理由(D評価のみ記入)					
工夫・努力したこと	本庁への来庁が難しい相談者については、北部振興局で相談を受ける等ひとり親家庭への支援充実を進めた。				
課題・今後の取組	就労支援補助金の申請者数が少ないため、制度の周知に努めひとり親家庭の生活の安定を目指す。				

(29) 放課後児童クラブの充実

放課後児童クラブが、保護者の仕事と子育ての両立を支援し、子どもたちが安全で楽しく過ごせる場所となるよう、学校、地域、関係機関が連携し増加するニーズに応じた施設を確保するとともに、運営の充実を図ります。

指 標(進捗管理目標)	現状値	R7年度 目標値	R3年度 目標値	R3年度 実績値	事業の評価
放課後児童クラブの待機児童数	214人	0人	56人	0人	A

主な事業又は取組		目的	成果(実績)	決算(千円)	担当課
①	放課後児童クラブ運営事業	就労等により保護者が昼間家庭にいない小学生を対象に、放課後に適切な遊びや生活の場を提供し、児童の健全育成を図る。	放課後の子供の居場所を確保するため、利用者の増加が見込まれる小学校区において、放課後児童クラブ専用施設(プレハブ)の設置や民間事業者の新規参入を図り、待機児童0となった。	478,639	子育て支援課
低評価となった理由 (D評価のみ記入)					
工夫・努力したこと		支援員の適正な配置を図るべく、支援員不足を解消するため随時支援員の確保に努めた。			
課題・今後の取組		支援員不足や要配慮児童等への対応に向け、随時支援員の募集を図ると共に、支援員への研修や専門的機関からの助言を得る等、支援員の資質向上を図る。			

教育大綱:基本目標	3 学校・家庭・地域のつながりを深め、地域全体の教育力の向上をめざします
施策の基本的方向	8 人権尊重の社会づくりの推進

■指標(進捗管理目標)対象事業

<b>(30) 人権学習・啓発等の推進</b>							
<p>全ての人がお互いの「個性」を尊重し、多様性を認めあい、互いに支えあいながら人権が尊重される社会の実現をめざして、人権をめぐる今日の社会情勢を踏まえた人権学習・啓発等を推進し、学校・地域・家庭・企業・関係団体等が協力しあい、人権意識の高揚を図ります。          既存の人権問題の変化や、インターネットにおける人権問題やセクシュアルマイノリティの人権問題といった新たな人権問題等、時代の変化にあわせた人権啓発の取組を進めます。</p>							
指 標(進捗管理目標)		現状値	R7年度 目標値	R3年度 目標値	R3年度 実績値	事業の評価	
自治会での人権学習会の評価(5段階評価)		4.6	4.8	4.8	2.7	C	
主な事業又は取組		目的			成果(実績)	決算(千円)	担当課
①	人権尊重都市推進事業	人権が尊重される社会の実現をめざす。			市内19地域で地域人権学習協議会総会(書面会議含む)を開催し、各自治会で人権学習を実施した。 425自治会のうち370自治会(87.1%)において、人権学習会(資料配布等を含む)を実施 人権学習会・地域人権のつどい参加者数 2,029人	3,155	人権施策推進課
②	じんけん連続講座事業	人権尊重のための知識をより一層養う。			じんけん連続講座を3回(第1回:ハイトスピーチ、第2回:ゲートキーパー、第3回:アイヌ民族)開催した。 参加者数 第1回:55人、第2回:49人、第3回:47人	13	人権施策推進課
低評価となった理由(D評価のみ記入)							
工夫・努力したこと		人権学習会については、集合形式の人権学習の実施が一定の割合を占めており、新型コロナの影響による自治会活動の自粛などから令和3年度は現状値よりも実績値が大幅に下がった。そのため、集合形式の人権学習が実施できない場合は、各世帯に啓発資料を配布いただくなど人権啓発に努めた。じんけん連続講座については、人数制限やマスク着用など新型コロナウイルス感染対策を行い開催した。					
課題・今後の取組		人権学習会を開催いただけるようコロナ禍での人権学習の取組事例を紹介していく。 人権学習会の評価方法について、集合形式の人権学習会が前提となっているため、今後の感染状況をみながら見直しを検討する。					

<b>(31) 男女共同参画に関する学習機会・啓発等の推進</b>							
<p>男女の人権が尊重され、一人ひとりが地域や家庭・職場等、社会のあらゆる分野でいきいきと活躍できる男女共同参画社会の実現をめざして、学習機会の提供や意識啓発等を推進します。</p>							
指 標(進捗管理目標)		現状値	R7年度 目標値	R3年度 目標値	R3年度 実績値	事業の評価	
固定的な性別役割分担意識にとらわれない人の割合(男女共同参画に関する市民意識調査)		58.90%	70.0%	70.0%	62.0%	B	
主な事業又は取組		目的			成果(実績)	決算(千円)	担当課
①	長浜ジョブカフェ事業	地域・家庭・職場等様々な場面で、女性が活躍できる社会の実現をめざす。			新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため人数制限をしてセミナーを開催した。(受講者数 延292人) ・スタート基礎クラス 8回開催/受講者数 延124人 ・フォローアップセミナー 13回開催/受講者数 延168人 ・交流会 2回実施/参加者数 延19人 ・先輩起業家セミナー 2回開催/受講者数 延23人 ・子育て世帯の父親をターゲットにした啓発講座 3回開催/参加者数 延113人	1,296	人権施策推進課
②	男女共同参画啓発事業	性別に関係なく一人ひとりがいきいきと活躍できる社会の実現をめざす。			長浜市パートナーシップ推進協議会委員と街頭啓発を3回実施した。(6/29、11/14、3/8) 男女共同参画に関する標語・ポスターを募集し、男女共同参画賞作品を啓発物品に掲載して配布した。	56	人権施策推進課
低評価となった理由(D評価のみ記入)							
工夫・努力したこと		感染状況に応じ、会場とオンラインを使い分け、セミナーを中止することなく開催した。 街頭啓発では、マスクやビニール手袋着用等感染対策をしながら実施した。					
課題・今後の取組		子育て世帯の父親だけでなく、祖父も対象とし、子どもとの3世代で参加できる啓発講座の検討・実施する。					

## 基本目標4

地域の伝統・文化を生かし、  
郷土を愛する心を育てます

教育大綱・基本目標	4 地域の伝統・文化を生かし、郷土を愛する心を育てます
施策の基本的方向	9 地域の伝統・歴史・文化の継承

■指標(進捗管理目標)対象事業

(32) 文化財の調査と保護の推進					
本市には、未指定を含めた多様な文化財が数多く存在し、それら貴重な文化財を市民の財産として親しまれるよう、積極的に基礎的な調査と資料整理を行うとともに、文化財指定等を通じて文化財保護に努めます。 市内の文化財の写真・解説・伝統行事等のデジタル化を進め、データベース化し歴史文化資産として活用することに努めます。 歴史文化発信の基礎となる資料の収集に取り組むとともに、個人や地域で守れなくなった文化財を保存する収蔵庫については、既存施設の再編等を進める中で収蔵スペースを拡大し、適切な保存環境の確保に努めます。					
指 標(進捗管理目標)	現状値	R7年度 目標値	R3年度 目標値	R3年度 実績値	事業の評価
指定文化財の件数	453件	459件	458件	470件	A
主な事業又は取組	目的	成果(実績)		決算(千円)	担当課
① 北国街道木之本宿 伝統的建造物群保存対策事業	北国街道木之本宿において伝統的な建造物や町並みを活用した賑わいの創出と活力ある地域づくりを進める。	立命館大学衣笠総合研究機構に委託して8棟の建造物調査を実施した。		2,724	歴史遺産課
低評価となった理由 (D評価のみ記入)					
工夫・努力したこと	町歩きや町屋に関する講演を実施して、町屋の価値の普及活動を行った。				
課題・今後の取組	重要伝統的建造物群保存地区選定に向けて、地元協議、普及活動を行う。				

(33) 歴史文化の継承					
市民が自分たちの地域の歴史や文化を通じて郷土を愛する心と豊かな情緒を培い、歴史文化が市民にとってさらに身近なものになるよう、関係機関と連携し、学校の授業や地域を対象に、歴史講座や伝統文化の体験学習等を開催します。 地域の文化財を後世に伝えるため、文化財を地域で守る体制を確立し、保存活用団体等の活動を支援します。さらに、文化財を歴史文化遺産として市内に点在している文化財をジャンルやエリアで一体として捉え、保存活用する体制を進めます。 歴史文化を学び、語り伝える人材を育成する為、歴史文化に関する学習機会を提供します。また、文化財の保存・修理に関わる技術者養成の支援を行います。					
指 標(進捗管理目標)	現状値	R7年度 目標値	R3年度 目標値	R3年度 実績値	事業の評価
地域にある文化財を保護・活用する保存活用団体等の数	1件	3件	1件	1件	A
主な事業又は取組	目的	成果(実績)		決算(千円)	担当課
① 歴史文化資産保存 活用団体の設立促進	「歴史文化資産」の所有者や地域の関係者が、自ら保存活用する意欲を醸成する。	観音の里祈りとくらしの文化伝承会議2回 講演会1回 木之本宿の歴史的遺産を活かしたまちづくり研究部会2回 見学会1回 菅並集落伝統的建造物群保存対策調査委員会2回		126	歴史遺産課
低評価となった理由 (D評価のみ記入)					
工夫・努力したこと	「歴史文化資産」の所有者・関係者とともに、協議や会議、木之本宿の見学会といった普及事業を実施した。				
課題・今後の取組	地域の過疎化・少子高齢化が進み、歴史文化資産を守る後継者不足が課題である。そのため、文化財を地域で守る活動等を支援する。				

⑬ 歴史文化の活用と情報発信					
<p>観光や地域振興等、他の部署と連携を図り、歴史文化を活かしたまちづくりを推進します。資料館を地域の歴史文化を活かした住民主体の魅力ある地域づくりの活動拠点として体制の強化を図ります。各歴史文化施設の特性を生かしながら、その地域の歴史文化や先人をテーマにした展覧会・講演会・見学会等を行い、これらを刊行物やインターネットを活用して情報発信することで、本市の魅力を広く内外に周知する機会を増やします。</p>					
指標(進捗管理目標)	現状値	R7年度 目標値	R3年度 目標値	R3年度 実績値	事業の評価
長浜城歴史博物館の入館者数	99,481人	130,000人	35,000人 (R3開館:4か月)	17,390人	D
主な事業又は取組	目的	成果(実績)		決算(千円)	担当課
① 長浜城歴史博物館 展覧会開催事業	長浜市が持つ歴史の多様性や魅力を市内外に広く周知する。	湖北・長浜の歴史文化や人物をテーマとした展覧会(企画展・特別陳列)を開催した。企画展「石田三成－秀吉に仕えた知将の生涯－」、企画展「藤岡和泉－ユネスコ無形文化遺産・長浜曳山祭を造った大工のすべて－」、常設展「秀吉と長浜」コーナー展示「明智光秀と元亀争乱」、「秀吉と国友鉄砲」を開催した。		3,521	歴史遺産課
低評価となった理由 (D評価のみ記入)	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、入館者数が減少したため。				
工夫・努力したこと	耐震補強等改修工事に伴い8月1日から令和4年3月31日まで長期休館したことから、京都・高台寺との共催で出張展覧会「城主ねね～湖月、長浜を照らす～」を開催。当館収蔵品の中から秀吉関連の資料を高台寺掌美術館・高台寺方丈書院で展覧した。高台寺を訪れる多くの参詣者に長浜の歴史や魅力をPRする良い機会となった。 会期: 令和3年10月22日～12月12日、会期中来訪者数: 149,406人				
課題・今後の取組	今後も湖北・長浜の歴史や文化、人物をテーマとした展覧会、市の政策や旬の話題をテーマにした展覧会を開催し、市民や観光客に長浜市が持つ歴史の多様性や魅力を広く紹介するとともに、求められているニーズを的確に把握し、異分野との連携やSNSを活用した広報戦略など、入館者を増やすための対策を図っていく。				

## ■その他事業

⑭ 歴史文化の継承					
<p>市民が自分たちの地域の歴史や文化を通じて郷土を愛する心と豊かな情緒を培い、歴史文化が市民にとってさらに身近なものになるよう、関係機関と連携し、学校の授業や地域を対象に、歴史講座や伝統文化の体験学習等を開催します。地域の文化財を後世に伝えるため、文化財を地域で守る体制を確立し、保存活用団体等の活動を支援します。さらに、文化財を歴史文化遺産として市内に点在している文化財をジャンルやエリアで一体として捉え、保存活用する体制を進めます。歴史文化を学び、語り伝える人材を育成する為、歴史文化に関する学習機会を提供します。また、文化財の保存・修理に関わる技術者養成の支援を行います。</p>					
主な事業又は取組	目的	成果(実績)	決算(千円)	評価	担当課
① 博物館・資料館における教育普及事業	市民や子どもたちが長浜の歴史・文化を通じて郷土に愛着と誇りを持つ。	博物館・資料館において、長浜市の歴史や文化をテーマとした魅力ある講演会や現地研修、体験学習等を各館友の会との共催により開催した。【教育普及事業参加者数】のべ3,321人(長浜城歴史博物館・浅井歴史民俗資料館・高月観音の里歴史民俗資料館合計)	0	達成	歴史遺産課
未達成となった理由 (未達成のみ記入)					
工夫・努力したこと	コロナ禍にあっても最大限の感染防止対策に努めながら、講演会や現地研修、体験学習等を開催した。				
課題・今後の取組	博物館・資料館の支援団体である友の会組織は、各館が行っている市の歴史文化活動のうち教育普及部門を一手に引き受けている存在であり、博物館・資料館(行政)と市民の協働体制が確立した好例といえる。今後もこの体制を保ちつつ、事業の充実に努める。一方で、これらの活動をサポートするボランティア(長浜城歴史博物館友の会・あざい歴史の会・観音の里歴史民俗資料館友の会)のメンバー固定化・高齢化が課題であることから、新たなボランティアの取り込みに努める。				

## 基本目標5

いつでも、どこでも、だれでも学びあえる  
生涯学習環境の充実を図ります

事業No.に★がついている事業は外部評価の対象です。

教育大綱・基本目標	5 市民一人ひとりが学びあえる生涯学習環境の充実を図ります
施策の基本的方向	10 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進

■指標(進捗管理目標)対象事業

★(35) 誰もが学べる場の提供					
市民の身近な学びの場として、まちづくりセンターや文化ホール、体育施設、図書館等が主に活用されることから、各施設の立地環境や地域の特性に応じた、市民が取り組みやすい学びの場を提供するよう努めます。					
指 標(進捗管理目標)	現状値	R7年度 目標値	R3年度 目標値	R3年度 実績値	事業の評価
地域に根ざした生涯学習事業(子ども学びと生涯学習のまちづくり推進事業)の計画講座数	142講座	160講座	430講座	271講座	C
子ども学び座の計画講座数 →上段に統合	287講座	300講座	上段に統合	上段に統合	-
主な事業又は取組	目的	成果(実績)		決算(千円)	担当課
① 子ども学びと生涯学習のまちづくり事業	地域における生涯学習拠点を活用し、地域の特性を活かし市民ニーズに応じた生涯学習機会を提供する。	全地域のまちづくりセンター等で、子どもから大人までの生涯学習講座を実施した。 参加者延数 5,411人 実施講座数 271講座		3,542	生涯学習文化課
② 子ども劇場推進事業	身近な「本」の読み聞かせから紙芝居、人形劇へと子どもの学習機会を展開させ、人形劇等を通じて子どもの学び力を育む。	人形劇派遣事業を実施した。 実施校・園 13箇所 実施率100% 参加人数 905人		765	生涯学習文化課
低評価となった理由 (D評価のみ記入)					
工夫・努力したこと	全てのまちづくりセンターや生涯学習施設において、感染対策を講じながら、地域の特性を生かしたまちづくり・人づくりにつながる生涯学習講座を実施した。				
課題・今後の取組	新型コロナウイルス感染拡大により中止となった講座も多かったが、感染対策を講じながら、引き続き各施設の地域特性を生かした学びの場の提供を推進する。				

★(36) 多様な学びの機会の提供					
各年齢層や性別によって学びの関心や重要度も異なることから、あらゆる世代に対応できるような学習種別と機会の提供に努めます。また、市民にわかりやすく系統立ったプログラム編成をめざします。					
指 標(進捗管理目標)	現状値	R7年度 目標値	R3年度 目標値	R3年度 実績値	事業の評価
生涯学習講座(学びなおし講座)の計画講座数	9講座	12講座	10講座	10講座	A
主な事業又は取組	目的	成果(実績)		決算(千円)	担当課
① 【再掲】子ども学びと生涯学習のまちづくり事業	地域における生涯学習拠点を活用し、地域の特性を生かし市民ニーズに応じた生涯学習機会を提供する。	全地域のまちづくりセンター等で、子どもから大人までの生涯学習講座を実施した。 参加者延数 5,411人 実施講座数 271講座		3,542	生涯学習文化課
② 地元先生育成プロジェクト	大学等の高等教育機関やまちづくりセンター等の社会教育施設において専門的な学習機会の提供を行い、学んだ知識を次世代の地域人材へ伝えられる人を育成する。	びわ湖東北部エリアの大学や市内県立高等学校等と連携し、地域で活躍する人材の育成を図る講座を実施した。 10講座実施(全12講座のうち2講座はコロナにより中止) 延べ214人参加		100	生涯学習文化課
低評価となった理由 (D評価のみ記入)					
工夫・努力したこと	子ども・若者から大人まで、様々な年代に応じた講座を実施した。また、地元先生育成プロジェクトでは、学ぶだけにとどまらず学びから地域活動に役立つ講座をワークショップを中心に実施した。				
課題・今後の取組	引き続き、地域の特性を生かし、市民・社会のニーズに応じた多様な学習機会の提供の充実を図り、自主的、主体的な学習活動を支援する。学校や地域、大学、企業、民間団体など様々な関係機関との連携・協働をさらに推進する。				

★(37) 学びを深める人づくりの支援						
<p>学びを深め広げるには、多様な知識や考えを持った多くの人材を必要とします。知識や技能を習得するばかりでなく、他の機会に共有できる仕組みづくりに努めるとともに、長浜を愛し、地域づくり活動へつながるよう支援していきます。</p>						
指 標(進捗管理目標)		現状値	R7年度 目標値	R3年度 目標値	R3年度 実績値	事業の評価
リーダー育成事業 目標人数に対する参加率		80.0%	90.0%	80.0%	80.0%	A
主な事業又は取組		目的	成果(実績)		決算(千円)	担当課
①	「長浜人(ながはまびと)に学ぼう!!」事業	長浜市内の高校に通う高校生に長浜の魅力を伝え、長浜を誇りに思い、地域や産業を担う「長浜人」を育むとともに、若者の定住促進、ふるさと回帰を図る。	講演会等を次のとおり実施した。 ・長浜北高校…10/18講演会 1年生241名 ・虎姫高校…11/10講演会 1年生200名 ・伊香高校…12/14キャリア授業 2年生86名 人づくりバンクに、2名が新規登録した。		215	生涯学習文化課
②	【再掲】地元先生育成プロジェクト	大学等の高等教育機関や市町の社会教育施設において専門的な学習機会の提供を行い、学んだ知識を次世代の地域人材へ伝えられる人を育成する。	びわ湖東北部エリアの大学や市内県立高等学校等と連携し、地域で活躍する人材の育成を図る講座を次のとおり実施した。 10講座(全12講座のうち、2講座はコロナにより中止) 延べ214人参加		100	生涯学習文化課
低評価となった理由(D評価のみ記入)						
工夫・努力したこと		長浜人に学ぼう事業では、市内高校生が長浜で活躍している大人から、本市が持つ歴史、文化、産業など様々な魅力を学ぶことで、将来を考える機会とし、地域への愛着と誇りの醸成を図った。また、将来の地域づくりを担うリーダー育成事業や地元先生育成プロジェクトにより学びから人づくり、地域づくりへとつなげる講座を実施した。				
課題・今後の取組		引き続き、学びからの人づくり、つながりづくり、地域づくりにつながる学習機会の提供を行うとともに、生涯学習に関する助言や学んだ成果を地域づくりに生かし、地域の学びの展開とその支援を行う学びを支える人材の育成を図っていく。				

★(39) 図書館サービスの充実						
<p>市民の多様で高度な資料要求に応え、市内全域にサービスを届けるために、中央図書館機能を持つ長浜図書館を要として各図書館が一体となった体制を確立します。また、レファレンス機能を強化し、一人ひとりに寄り添ったきめ細かい資料提供をおこなうことで、市民が暮らしの中でより身近で便利に図書館を利用できるようサービスの充実に努めます。</p>						
指 標(進捗管理目標)		現状値	R7年度 目標値	R3年度 目標値	R3年度 実績値	事業の評価
レファレンス事例のホームページ公開件数		—	15件	3件	8件	A
主な事業又は取組		目的	成果(実績)		決算(千円)	担当課
①	レファレンス事例の公開	よくある問い合わせや郷土に関する調査事例を公開することで、レファレンスサービスを広く知ってもらい、活用してもらう。	地域編として4件、一般編として4件を図書館ホームページに掲載した。		0	生涯学習文化課(図書館)
低評価となった理由(D評価のみ記入)						
工夫・努力したこと		より積極的に声かけするなどして、カウンター、フロア、電話、Eメール等から質問を169件受け付けた。総合的にレファレンスサービス力を強化するため、初任者向けのレファレンス講習をのべ18回実施した。				
課題・今後の取組		回答する力を向上させるため、専門的な研修の恒常的な実施と、まだレファレンスサービスを知らない市民への周知に取り組んでいく。				

★(40) 図書館を情報拠点とした市民の学習活動の支援						
市民の知る自由を保障するため、誰もが図書館サービスを利用してあらゆる学習活動を深めることができ、地域の活性化・暮らしの豊かさにつなげるための情報拠点となるよう、市民に役立つ資料を充実させ、市民の学習活動の場を提供します。そして、これらの成果を情報として蓄積し、新たな学習活動につなげていきます。						
指 標(進捗管理目標)		現状値	R7年度 目標値	R3年度 目標値	R3年度 実績値	事業の評価
図書館における貸出冊数		873,970冊	1,300,000冊	900,000冊	870,578冊	A
主な事業又は取組	目的	成果(実績)			決算(千円)	担当課
①	資料の充実	郷土のことがわかる資料や日々の暮らしに役立つ資料を幅広く計画的に収集し、将来にわたって市民の生涯学習の拠点となる。			32,958	生涯学習文化課 (図書館)
②	資料の提供	図書館だけではなく他の機関と連携することにより、さまざまな情報を本以外の媒体なども使って発信することができた。また、6図書館・北部3図書室で、季節に合わせた本の特集展示を実施した。			0	生涯学習文化課 (図書館)
低評価となった理由 (D評価のみ記入)						
工夫・努力したこと		中央図書館である長浜図書館で集中的に発注・登録などを行い、事務の効率化を図りながら全体にバランスよく配本した。また、職員の選書力を強化するため、初任者向けの選書講習をのべ18回実施した。展示や講座と資料を組み合わせることで、市民の学習の興味関心を広げることができた。				
課題・今後の取組		選書力を培っていく必要があるため、研修に積極的に取り組んでいく。 また、資料の提供により、新たな学習活動につながるような事業の取組を行っていく。				

★(41) 子どもの読書活動の推進						
読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものです。そのため、子どもたちが幼児期から読書習慣を身に付けることができるように、学校・園、家庭、地域が連携・協働体制をとり読書環境の整備を進めます。						
指 標(進捗管理目標)		現状値	R7年度 目標値	R3年度 目標値	R3年度 実績値	事業の評価
1か月間の読書冊数が1冊以下の割合 ・小学4年生から6年生		8.8%	7.5%	8.5%	12.7%	C
1か月間の読書冊数が1冊以下の割合 ・中学生		33.9%	15.0%	30.0%	32.6%	A
主な事業又は取組	目的	成果(実績)			決算(千円)	担当課
①	つなごう！子どもと本～「けやきっ子プロジェクト」～事業	読書を通じて、市の木けやきのようにのびのびと豊かに生きる「けやきっ子」を育む。			355	生涯学習文化課 (図書館)
低評価となった理由 (D評価のみ記入)						
工夫・努力したこと		近隣の大学や図書館と連携して、若者世代に向けて事業をおこなった。大学生が同世代に向けた事業を企画することで、これまでになかった視点で本の特集展示を行った。				
課題・今後の取組		読書離れが顕著な中学生から大学生世代に対して、引き続き読書活動を促す取組を行っていく。				

■その他事業

★(38) 学びのための情報発信					
学びの機会を設けたときは、適切に周知することが必要です。地域や対象等、適切な範囲に適切な情報提供を行います。					
主な事業又は取組	目的	成果(実績)	決算(千円)	評価	担当課
① 学びの機会や場の情報提供	市民が様々な手段で気軽に生涯学習講座などの情報を得る機会をつくる。	年度当初に長浜市学習情報誌「生涯学習のおさそい」を発行し、HPでも掲載して周知を行った。	0	達成	生涯学習文化課
未達成となった理由 (未達成のみ記入)					
工夫・努力したこと					
課題・今後の取組	さらに積極的に情報発信を行っていくことが必要なため、次年度から、市だけではなく滋賀県学習情報提供システム「におねっと」にも情報を掲載し、市民に広くわかりやすく情報発信に努める。				

◇事務評価委員会所見等

(39) 図書館サービスの充実	レファレンス事例の公開【生涯学習文化課（図書館）】
事務評価委員会の所見	教育委員会の今後の取組等
レファレンス事例の公開について、調査・研究などへの専門的な資料提供の事例だけではなく、誰もが気軽に利用できるような事例をホームページで公開して頂ければ、もっと利用しやすいのではないかと。	レファレンスサービスは、日常の疑問から調査研究のお手伝いまで幅広く支援するものです。ご指摘のとおり、どなたにも気軽にご利用いただけるように、公開する事例は地域に関するところを始め、果実の加工方法や牛乳パック工作など身近なテーマを取り上げるよう心がけています。今年度は、児童向けの事例も公開する予定です。
自分が調べたいことに対して、図書館司書に聞くと、効率的に自分でも思いつかなかった資料を選んでもらえて、とても助かっている。子どもたちに、図書館で調べたいことなどを、図書館司書に聞いても良いという情報を教えていただきたい。学校での読み聞かせの機会などに「レファレンス」という言葉を教えることで、子どもたちからの情報発信により、さらにレファレンスサービスの利用が広がっていくのではないかと。	ご意見のとおり、PRに努めて「レファレンスサービス」の認知度を上げることが大切と考えています。学校からの施設見学などの機会を捉えて、さらに周知していきます。
(41) 子どもの読書活動の推進	つなごう！子どもと本～「けやきっ子プロジェクト」～事業【生涯学習文化課（図書館）】
事務評価委員会の所見	教育委員会の今後の取組等
子どもの読書の推進で、学級巡回文庫「おはなしのたからばこ」を置いていただいている。子どもたちが気に入った本を見つけられる良い取組だと思うので、これからも続けていただきたい。	今後も、子どもたちが本に親しめる機会の充実に努めます。
(38) 学びのための情報発信	学びの機会や場の情報提供【生涯学習文化課】
事務評価委員会の所見	教育委員会の今後の取組等
ホームページの「生涯学習のおさそい」について、活用方法が難しいかと思うが情報を検索できるシステムに期待したい。	県の生涯学習情報システム「におねっと」には検索機能が搭載されているため、当システムを活用しての発信を検討しています。

教育大綱・基本目標	5 市民一人ひとりが学びあえる生涯学習環境の充実を図ります
施策の基本的方向	11 文化・芸術の創造と振興

■指標(進捗管理目標)対象事業

(42) 文化芸術の鑑賞の充実と創作・発表・交流活動への支援					
市民が文化芸術に興味や関心をもち、心豊かな暮らしが実現できるよう、幅広い年齢層を対象に様々なジャンルの質の高い文化芸術の鑑賞機会を提供します。また、多くの市民が創作や発表等、文化芸術活動を通して自己実現するとともに、お互いの交流を深め、多彩な地域文化を育むことができるよう支援を行います。					
指 標(進捗管理目標)	現状値	R7年度 目標値	R3年度 目標値	R3年度 実績値	事業の評価
長浜市文化芸術ユース会議実施イベントの参加者数	812人	900人	815人	732人	B
自校主催の吹奏楽演奏会を開催している中学校の数	4校	5校	4校	1校	D
主な事業又は取組	目的	成果(実績)		決算(千円)	担当課
① 文化芸術活動振興事業	市民の文化活動を支え、文化事業を推進することにより、魅力ある地域を生み出し、「市民の心の豊かさ」と「まちの活性化」につなげる。	次のとおり、各事業への団体補助を実施した。 鑑賞型事業(オーケストラ公演・演劇公演等) 8事業 次世代育成事業(キッズアートフェスティバル等) 5事業 市民文化創造事業(市民オペラ公演等) 3事業		25,290	生涯学習文化課
② ユース芸術文化活動振興事業	若者が自主的に新たな文化事業の企画・運営を行い、文化を通して次代を担う子どもたちや若者をはじめ、市民が気軽に文化芸術活動にふれることができる環境の創造を図る。	次のとおり、各事業を実施した。 人材育成事業(演劇ワークショップなど) 5事業 子ども芸術体験事業(学校派遣) 18校 1事業 舞台芸術制作事業 2公演 交流事業(ショートムービー制作)		1,492	生涯学習文化課
低評価となった理由(D評価のみ記入)	新型コロナウイルス感染症拡大により、予定されていた演奏会等が中止となったため。				
工夫・努力したこと	感染対策を徹底しながら、できる限り文化事業を継続させた。				
課題・今後の取組	次世代育成事業や市民参加型事業の充実や情報発信の強化を図る。				

(43) 文化施設の活用と文化芸術団体との連携・協力					
市民の主体的な文化芸術活動を通してまちの活性化をめざすため、文化芸術関係団体の連携・協力を進め、文化施設の有効な活用を図ります。					
指 標(進捗管理目標)	現状値	R7年度 目標値	R3年度 目標値	R3年度 実績値	事業の評価
長浜市舞台芸術交流祭の参加団体数	8団体	9団体	8団体	中止	D
長浜市芸術文化祭の参加事業数	54事業	60事業	事業実施なし	事業終了	-
長浜市民芸術文化創造協議会会員数	8団体	9団体	9団体	12団体	A
主な事業又は取組	目的	成果(実績)		決算(千円)	担当課
① 【再掲】 文化芸術活動振興 事業	市民の文化活動を支え、文化事業を推進することにより、魅力ある地域を生み出し、「市民の心の豊かさ」と「まちの活性化」につなげる。	次のとおり、各事業への団体補助を実施した。 鑑賞型事業(オーケストラ公演・演劇公演等) 8事業 次世代育成事業(キッズアートフェスティバル等) 5事業 市民文化創造事業(市民オペラ公演等) 3事業		25,290	生涯学習 文化課
低評価となった理由 (D評価のみ記入)	新型コロナウイルス感染拡大の影響等により事業中止となったため。				
工夫・努力したこと	感染対策を徹底しながら、できる限り文化事業を継続させた。				
課題・今後の取組	文化芸術団体メンバーの高齢化や固定化などにより活動の広がりが生まれにくく、継続的な活動が難しくなっているため、次世代育成事業の充実、活動をサポートする窓口の設置と情報発信の強化を図る。 長浜市芸術文化祭は、紙媒体により市内の文化イベントを紹介する事業であったが、よりリアルな情報発信が求められる中で、今後は文化芸術ポータルサイト等での積極的なPRを図るとして事業見直しを行っている。 今後も代替事業は予定しておらず、指標の見直しが必要である。				

教育大綱・基本目標	5 市民一人ひとりが学びあえる生涯学習環境の充実を図ります
施策の基本的方向	12 スポーツ活動の推進

■指標(進捗管理目標)対象事業

(44)「する」スポーツの推進					
生涯にわたりスポーツに親しめるようライフステージに応じたスポーツ活動を推進するとともに、競技スポーツ選手の育成支援、スポーツ環境の整備を進めます。					
指標(進捗管理目標)	現状値	R7年度 目標値	R3年度 目標値	R3年度 実績値	事業の評価
スポーツ施設利用者数(学校開放事業除く)	530,239人	560,000人	530,000人	345,426人	C
全国規模大会開催数	4件	15件	4件	4件	A
主な事業又は取組	目的	成果(実績)		決算(千円)	担当課
① 大規模スポーツイベントの実施	生涯スポーツへの関心を高め、市民の健康増進を図る。	市民の健康増進を図るため、大規模スポーツイベント(ツアーデーマーチ、お市マラソン)の実施に向けて取り組んだ。※事業内容を精査し、準備等を進めたがコロナ感染症拡大の影響を受け中止せざるを得なかった。		16,024	スポーツ振興課
② 長浜伊香ツインアリーナ第2期整備工事	2025年に開催される滋賀国スポ柔道競技の会場として、また、地域のスポーツ拠点として整備を行い、生涯スポーツの推進を図る。	駐車場、みどりの広場を整備し、屋外トイレ・倉庫の改修を行った。		194,089	スポーツ振興課
低評価となった理由(D評価のみ記入)					
工夫・努力したこと	安心して事業参加(施設利用)できるよう、施設の管理運営において感染症対策を徹底するとともに利用者への感染症予防についての啓発等を行った。				
課題・今後の取組	スポーツ活動は、コロナ禍において自粛(制限)を余儀なくされているが、従前のように多くの方が参加し親しむことができるよう、引き続き感染症対策を徹底するとともに、安全・安心な事業を計画・実施していく。				

■その他事業

(45)「みる」スポーツの推進						
令和7年に滋賀県で開催される予定の国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会をスポーツ振興の絶好の機会としてとらえ、スポーツに対する関心を高め、子どもたちに夢や希望を与えられるよう大規模大会の誘致やトップアスリートと交流できる事業に取り組めます。						
主な事業又は取組	目的	成果(実績)		決算(千円)	評価	担当課
① ながはまスポーツ夢プロジェクト	子どもたちが著名なアスリートや指導者と触れ合う機会を提供することで、スポーツに対する夢や希望を育む。	次のとおり事業を実施した。 ・幼少期スポーツ教室(R3.5~R4.3) 502人 ・キッズ「アスリート」(R3.11.27) 52人 ・夢の教室(R4.1~3) 298人 ・柔道教室(R4.3.27) 199人		2,502	達成	スポーツ振興課
② 各スポーツ大会への助成	市民の「みる」スポーツへの関心を高める。	第72回長浜ひょうたんボウル開催への支援を行い、約1,200人が観戦した。		100	達成	スポーツ振興課
未達成となった理由(未達成のみ記入)						
工夫・努力したこと	感染予防対策を講じた上で中止することなく事業を実施した。(※ただし、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から事業規模は縮小となった。)					
課題・今後の取組	大規模な大会の観覧(応援)やトップアスリートとの交流など、体験の機会を提供することによりスポーツへの関心をより一層高め、夢や希望を抱くことができるような事業を実施していく。					

(46)「ささえる」スポーツの推進					
国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の成功に向け組織体制の強化や指導者やボランティアの育成を図ります。また、地域スポーツを支える総合型地域スポーツクラブの活動やスポーツ活動に対する支援を行います。					
主な事業又は取組	目的	成果(実績)	決算(千円)	評価	担当課
① 各スポーツ団体への助成	スポーツ団体への助成を実施し、特に国スポ・障スポ大会の長浜市開催競技団体の組織体制強化を図る。	長浜市スポーツ協会へ650(千円)、長浜市スポーツ少年団へ3,433(千円)の団体運営補助を行った。	4,083	達成	スポーツ振興課
② 総合型地域スポーツクラブの育成・支援	地域の実情に応じたきめ細やかなスポーツ活動を推進する。	市内9地域でクラブを設立し、各地域の実情に応じて、誰でも身近な場所でいつでもスポーツができるよう支援した。	2,161	達成	スポーツ振興課
未達成となった理由 (未達成のみ記入)					
工夫・努力したこと	定期的に総合型地域スポーツクラブ連絡協議会を開催し、クラブの課題解決等に向けた意見交換や情報提供を行い、地域の実情に応じたスポーツ活動の推進に努めた。				
課題・今後の取組	各クラブにおける課題は共通することが多いため、課題の解決に向け、連絡協議会で協議を重ね、連携を図っていく。部活動の地域移行が国からうたわれている中で、受け皿となりうる長浜市スポーツ協会や長浜市スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブの連携を密にしていく。				

## 基本目標6

安全・安心で質の高い  
教育を支える環境を整備します

事業No.に★がついている事業は外部評価の対象です。

教育大綱・基本目標	6 安全・安心で質の高い教育を支える環境を整備します
施策の基本的方向	13 質の高い教育のための環境整備

■指標(進捗管理目標)対象事業

★(47) 誰もが安心して学べる学校・園施設等の整備					
<p>学校・園施設は、子どもたちが一日の大半を過ごす学習や生活の場です。安全・安心な教育環境を維持していくため、学校の適正配置を踏まえた上で施設の長寿命化改修を計画的に進めます。 また、インクルーシブ教育の理念に基づき全ての子どもが地域で教育を受ける機会を整えるため、エレベーターの設置等、施設のバリアフリー化にも継続して取り組みます。</p>					
指 標(進捗管理目標)	現状値	R7年度 目標値	R3年度 目標値	R3年度 実績値	事業の評価
小学校・中学校・義務教育学校のエレベーター設置割合	小:52.2%	小:60.0%	小:52.2%	小:52.2%	A
	中:70.0%	中:100.0%	中:70.0%	中:70.0%	A
	義:100.0%	義:100.0%	義:100.0%	義:100.0%	A
	合計:60.0%	合計:74.0%	合計:60.0%	合計:60.0%	A
主な事業又は取組	目的	成果(実績)		決算(千円)	担当課
校舎(園舎)維持管理経費	全ての子どもが地域で教育を受ける機会を整えるため、施設のバリアフリー化等を進める。	各校園に設置したエレベーターが正常に動作するよう、保守点検業務を委託するとともに、しょうがいを持つ児童・生徒に対応するための施設改修や設備の故障等に伴う修繕を実施した。		20,350	教育総務課
低評価となった理由(D評価のみ記入)					
工夫・努力したこと	しょうがいを持つ児童・生徒の入学等に対応するため、学校と連携し、特別支援教室内の改修やトイレの増設、階段手摺の追加等を行い、誰もが安心して学ぶことができる環境を整えた。				
課題・今後の取組	エレベーター未設置校への早期設置をはじめとする施設のバリアフリー化を進め、誰もが安心して学ぶことができる環境の整備に努める。				

★(49) 教職員研修の充実					
<p>学校・園のニーズや今日的な課題を踏まえ、就学前教育から中学校教育までの連続的な学びに対応する研修体制を整えるとともに、各現場での主体的な研修を推進・支援していきます。また、それぞれの経験に応じた指導力や教育課題解決力を向上させる実践的な研修を推進し、保育力、授業力、指導力、マネジメント能力等、今求められている「教師力」を向上させる研修の充実に努めます。</p>					
指 標(進捗管理目標)	現状値	R7年度 目標値	R3年度 目標値	R3年度 実績値	事業の評価
自主啓発研修・研究発表会等に、主体的に参加した教職員の人数	延べ773人	延べ966人	延べ812人	延べ833人	A
主な事業又は取組	目的	成果(実績)		決算(千円)	担当課
① 指導力向上校園支援事業	市内教職員の現状を踏まえ、若手教職員の保育力・指導力向上を図り、就学前教育及び義務教育の質の向上を目指した校園内OJTはもちろん、長浜市全体としても市単位での研修体制を構築し推進する。	元教員で経験豊かな15名の指導員を、2・3年次教員の支援を目的に30校に派遣し、また校内研究の支援へも派遣した。 合計249回派遣 (個別支援等239回、校内研究支援10回)		1,240	教育センター
② 自己啓発研修	今日的な教育課題を含め、また学習指導要領の趣旨を表現させるために必要な教職員としての資質・指導力を高めるとともに、専門的視野に立った指導力の向上をめざす。	次のとおり、研修等を実施した。 特別支援教育に係るシリーズ研修 4回 ICTに係るシリーズ研修 3回 コロナと人権に係る研修 1回 ネットワールに係る研修 1回 教育研究発表大会での教育講演会 1回 読み聞かせ講座 1回 運動あそび講座 1回 幼小連携講座 1回		280	教育センター
低評価となった理由(D評価のみ記入)					
工夫・努力したこと	コロナ禍の中、研修の機会を止めることなくオンラインにて研修を開催した。また、見のがし配信を行い、後日研修を視聴できるようにした。さらに、国のGIGAスクール構想に基づき1人1台整備されたタブレット端末を活用できるようICT研修を開催した。				
課題・今後の取組	今日的な教育課題を踏まえ、教職員のニーズにあった研修を企画して研修の機会や参加者を増やし、教職員の資質向上に取り組んでいく。				

★(51) 学校適正配置の協議・取組の推進					
<p>子どものための教育の質的充実、教育の機会均等及び水準確保における学校間格差の是正に向けて、外部関係者等を加えた学校適正配置検討会議等を設置して、保護者や地域等の意向を十分に踏まえながら、小中一貫教育校の導入を視野に入れた学校の適正配置の取組の検討を推進します。</p>					
指 標(進捗管理目標)	現状値	R7年度 目標値	R3年度 目標値	R3年度 実績値	事業の評価
本市において適正に配置されていると考える学校の割合	82.9%	85.0%	82.9%	82.9%	A
小中一貫教育により「学習指導」、「生徒指導」、「教職員の意識改革」に効果が認められたと回答した教職員の割合	70.8%	前年度比 +0.5%	71.3%	76.0%	A
主な事業又は取組	目的	成果(実績)		決算(千円)	担当課
① 学校適正配置・小中一貫教育推進事業	教育の質的充実、教育の機会均等及び水準確保における学校間格差の是正を図る。	<p>現在複式学級がある学校、今後5年以内に複式学級が想定される学校について、学校の適正規模、適正配置について検討をすすめた。(適正に配置されていると考える学校数35校中29校)</p> <p>また、学校再編を行った3校で児童生徒、保護者、教職員、地域を対象としたアンケートを実施し、学校統合や小中一貫教育の成果と課題の把握に努めた。</p>		46	教育改革推進室
低評価となった理由(D評価のみ記入)					
工夫・努力したこと	PTA役員等の会議に合わせた意見交換会の設定に努めた。				
課題・今後の取組	新型コロナウイルス感染拡大により、対象地域での意見交換会を実施することができなかつたため、教育環境の充実に向けて、年度末までに対象となる学校の保護者等との意見交換を各地域1回以上実施する。				

#### ■その他事業

★(47) 誰もが安心して学べる学校・園施設等の整備					
<p>学校・園施設は、子どもたちが一日の大半を過ごす学習や生活の場です。安全・安心な教育環境を維持していくため、学校の適正配置を踏まえた上で施設の長寿命化改修を計画的に進めます。</p> <p>また、インクルーシブ教育の理念に基づき全ての子どもが地域で教育を受ける機会を整えるため、エレベーターの設置等、施設のバリアフリー化にも継続して取り組みます。</p>					
主な事業又は取組	目的	成果(実績)	決算(千円)	評価	担当課
① 浅井中学校長寿命化改修事業	老朽化した建物について、機能や性能を現在求められている水準まで引き上げる。	令和4～6年度で実施予定の浅井中学校長寿命化改修工事に係る実施設計を行った。	24,068	達成	教育総務課
② 学校・園防犯機能強化事業	学校・園において子どもたちが安心して学び、生活を送れるよう、施設の防犯機能の強化を図る。	5校園(神照小・朝日小・高時小・よご認定・にしあざい認定)の緊急連絡用PHS機器を更新した。また、あざい認定こども園の玄関に、防犯対策強化工事(玄関ドアオートロック化)を行った。	21,382	達成	教育総務課
未達成となった理由(未達成のみ記入)					
工夫・努力したこと	各工事等の実施にあたっては、各校園・関係課・業者間で綿密な調整と十分な連携を図り、校園の運営に支障のない工程で取り組み、子どもたちに安全で安心な教育環境を整えることができた。				
課題・今後の取組	今後も、学校施設等長寿命化計画に基づき、施設の適正規模、適正配置を検討しつつ、長寿命化改修等により現有建物を最大限活用し、より良い学びの場を提供していけるよう、計画的・予防保全的な施設整備に取り組む。				

★(48) 就学援助による経済的支援					
経済的な理由により就学が困難な子どもに対して就学援助による経済的支援を行い、社会のセーフティネットとしての役割を担うとともに、子どもが安心して学習に取り組める環境づくりを推進します。					
主な事業又は取組	目的	成果(実績)	決算(千円)	評価	担当課
① 要保護準要保護児童生徒援助事業	経済的理由によって就学困難と認められる児童及び生徒へ就学援助等を行い、義務教育の円滑な実施に資する。	就学援助認定者(小学校:658人、中学校:418人)に対し援助費の給付を行った。入学前応援金認定者(小学校:37人、中学校:62人)に対し援助費の給付を行った。	小学校 43,294 中学校 43,317	達成	すこやか教育推進課
② 特別支援教育就学奨励事業	教育の機会均等の趣旨にのっとり、小・中・義務教育学校の特別支援学級の児童・生徒の保護者へ、就学に必要な経費の一部を支給することにより、特別支援教育の普及奨励及び振興に資する。	特別支援教育就学奨励費認定者(小学校:81人、中学校:45人)に対し援助費の給付を行った。	小学校 2,586 中学校 2,367	達成	すこやか教育推進課
未達成となった理由(未達成のみ記入)					
工夫・努力したこと	税制改正により所得基準が変更になったため、認定審査や支給に誤りのないよう注意を払った。				
課題・今後の取組	システム標準化に向けた準備を行い、事務の変更点などを確認する。書類不備や未申告等により申請不受理となってしまうケースをなくすため、保護者へのフォローを行う。				

★(50) 教職員の働き方改革の推進					
学校や園での教育は、教職員と子どもたちが人格的なふれあいを通じて行われるものであることから、教職員が心身の健康を保ち、ゆとりをもって子どもと向きあうことができるよう、業務量の適切な管理と教育職員の健康及び福祉の確保を図るための措置を行うよう努めます。					
主な事業又は取組	目的	成果(実績)	決算(千円)	評価	担当課
① 職員のワークライフバランスの取組の推進	『長浜市立学校における働き方改革取組方針』に基づき、各学校の業務改善や校務分掌の見直しと教職員の意識改革を図る。	R3年3月とR4年3月の同時期の超過勤務を比較すると、45時間以下は36%から43%と7%増加した。また、80時間以上の超過勤務は、16%から11%と5%減少した。	0	未達成	教育指導課
未達成となった理由(未達成のみ記入)	勤務時間の削減に向けて進んできてはいる。しかし、達成目標である80時間を超える教職員0%には至っていない。さらに、業務改善や働き方改革の意識を高めていく必要がある。				
工夫・努力したこと	各校で職員のワークライフバランスの取組を共有し、実践可能な取組を行った。				
課題・今後の取組	教職員や生徒、保護者の意見を聞きながら、試行実施することで、さらに働き方改革の成果が現れるよう取組を進めていく。				

#### ◇事務評価委員会所見等

(49) 教職員研修の充実	自己啓発研修【教育センター】
事務評価委員会の所見	教育委員会の今後の取組等
先生が自ら学ぶということが重要だと思うが、研修に対して補助をするような施策があれば良いのではないかと。	個々への旅費や参加費などを補助することは難しいため、無料のオンライン研修やオンデマンド研修の積極的な受講案内や、先生方のニーズに沿った教育センターにおける研修の充実に努めます。
(51) 学校適正配置の協議・取組の推進	学校適正配置・小中一貫教育推進事業【教育改革推進室】
事務評価委員会の所見	教育委員会の今後の取組等
小規模校の良さがあるとは思いますが、児童生徒の減少により同級生が少なくなる保護者の思いなどを十分に聞き取っていただきたい。	長期的に児童・生徒数の減少傾向を示す小規模校の中には、教育効果や学習指導の面で適正規模、適正配置の検討が必要な学校があります。保護者や地域の皆さんと十分に話し合い、子どもたちにとってより良い教育環境の在り方について検討を進めていきます。

## 4 第3期長浜市教育振興基本計画

本市がめざす教育の姿（基本方針）

# つながりあい、学びあい、豊かに生きる人づくりをめざす「ながはま」

私たちは、多くのひと・こと・ものに関わり、つながりをもちながら生活しています。本市は、湖北地方特有の美しい自然環境、魅力ある歴史遺産、地域に根づいた伝統文化が満ちあふれており、地域資源や伝統・文化を大切にしてきました。このまちで、「曳山まつり」や「おこない」などに代表される人と人との心のつながりを大切にしてきた先人たちの志を後世に引き継ぐとともに、人と人、学校と地域、心と心、あらゆるものをつなぎ、つながり、一体感のある教育を推進することにより、子どもから大人までが郷土に誇りをもち、生涯を通して学びあい、学び続けることのできる環境を創出します。そして、市民一人ひとりがお互いの人権を尊重し、心豊かな人生を送れるような人づくりをめざします。

令和3年1月

<6つの基本目標>

### 基本目標1 乳幼児期における就学前教育を充実します

多様化する社会の変化に伴い、コミュニケーション能力や学ぶ意欲の低下、体力の低下など、子どもたちの育ちに影響が出てきています。生涯にわたる人格形成の基礎を培う乳幼児期の就学前教育はとても重要なものであり、児童期における学びの基礎につながる芽生えを育むうえでも大切なものです。発達の過程を見通した遊びや体験を通して、学習意欲や活動意欲を高めるとともに、家庭や地域と連携し、子ども一人ひとりの特性に応じた支援体制を強化するなど、より質の高い、生きる力の基礎を培う就学前教育を充実します。

### 基本目標2 子どもの自立に向けて「生きる力」を育む教育を推進します

多様化・グローバル化する社会に伴い、子どもを取り巻く環境が大きく変容する中で、自立に向けた「生きる力」を一人ひとりに確実に身に付けさせることが重要です。生涯にわたり学び続ける基盤を培い、充実した人生を送るための基礎づくりとして、確かな学力と豊かな心、健やかな体の育成に取り組む一方、子ども一人ひとりの教育的ニーズを把握し、指導・支援の充実を図ります。

### 基本目標3 学校・家庭・地域のつながりを深め、地域全体の教育力の向上をめざします

社会情勢や子育てに対する意識の変化等により、教育へのニーズが多様化しています。次代を担う子どもたちを育て、健やかに成長させることができる地域社会を実現するためには、学校や家庭、地域が情報や課題を共有し、連携した取組が重要です。学校や家庭、地域が自らの役割と責任を果たし、つながりを深めるとともに、一体となって地域全体の教育力の向上をめざします。また、市民一人ひとりがお互いの個性や多様性を認め合い、お互いに支えあいながら、人権が尊重される地域社会をめざします。

### 基本目標4 地域の伝統・文化を生かし、郷土を愛する心を育てます

本市には湖北地方特有の美しい自然環境、魅力ある歴史遺産、地域に根づいた伝統文化が満ちあふれています。子どもから大人まで市民一人ひとりがあらゆる機会を通して、先人から引き継がれてきた遺産や伝統に触れることは、郷土を誇りに思う心、ひいては郷土を愛する心を育むため、遺産や伝統を守り次世代へ継承する取組を推進します。

### 基本目標5 いつでも、どこでも、だれでも学びあえる生涯学習環境の充実を図ります

市民一人ひとりが文化や芸術、スポーツなどの生涯学習を通して、自己実現をめざし、お互いに支えあい、学びあう中で、習得した成果を地域社会の中で生かすことは、その人の生きがいにつながります。心豊かな暮らしが実現できるよう、市民のだれもが学びあえる生涯学習環境の充実を図り、学んだことを生かせる社会づくりを推進します。

### 基本目標6 安全・安心で質の高い教育を支える環境を整備します

未来を担う子どもたちが、安全・安心な環境で学び、生活できるよう教育施設の整備や学校の適正配置の取組等、教育環境の整備・充実を図ります。また、学校や園のニーズや今日的な課題を踏まえた教職員への研修体制の充実と、教職員があたりかきや愛をもって子どもと向きあうことができるよう、教職員の働き方改革を推進し、質の高い教育をサポートします。

## 資料 用語解説(50音順)

	用語	解説
あ 行	インクルーシブ教育	人間の多様性の尊重等の強化、障害者が精神的及び身体的な能力等を可能な最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能とするとの目的の下、障害のある者となない者が共に学ぶ仕組み。
	運動あそび	発達段階に合わせて、楽しく体を動かすことによって運動能力を身につけ、コミュニケーション力や集中力を育む遊び。
	おうみ通学路アドバイザー	「通学における児童・生徒の交通安全対策アクションプラン」に基づき、県より委嘱を受け、通学路での見守りや危険箇所の点検、学校や関係機関との連絡調整等を実施するアドバイザー。
か 行	学校運営協議会	学校と保護者や地域住民がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める仕組み。
	学校適正配置	少子化が進む中で学校の小規模化を解消し、全ての市立学校において充実した教育が受けられるよう教育環境を整備するため、学校を適正に配置する取組。
	カリキュラム・マネジメント	子どもたちの姿や地域の実情等を踏まえて各学校が設定する学校教育目標を実現するために、教科等の学習内容や様々な活動を選択・配列して計画し、それを実施・評価・改善していくこと。教科等の枠を超えて関連の高い内容や活動を工夫して配列したり、様々な人材等を活用して学習を充実したりすることが求められている。
	義務教育学校	一人の校長のもと、一つの教職員組織が置かれ、義務教育9年間の学校教育目標を設定し、9年間の系統性を確保した教育課程を編成・実施する学校。心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育を基礎的なものから一貫して施すことを学校の目的としている。
	キャリア教育	一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育。
	国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会	国民スポーツ大会は、広く国民の間にスポーツを普及し、国民の健康増進と体力の向上を図るとともに、地方スポーツの推進と地方文化の発展に寄与することを目的に開催される日本最大のスポーツの祭典。また全国障害者スポーツ大会は、国スポ終了後にその開催都道府県で引き続き行われる障害者スポーツの全国的な祭典である。
	子ども安全リーダー	子どもを犯罪から守るため、警察署長から委嘱を受け、通学路等での安全パトロールや安全指導、見守り等の活動を行うボランティア団体。

さ 行	小中一貫教育校	小・中学校がめざす子ども像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、体系的な教育をめざす学校。
	情報モラル教育	情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方や態度を身につけさせる教育。
	スクールガード	あらかじめ各小学校に登録した地域住民が、学校内を巡回したり通学路等の巡回パトロールや危険箇所の監視等を行ったりする学校安全ボランティア。
	スクールカウンセラー	学校で児童生徒や保護者の悩みを聴くとともに、教員のサポートをし、不登校を始めとする児童生徒たちの心のケア、事件・事故等の緊急対応における被害児童生徒の心のケアにあたる心の専門家。
	スクールソーシャルワーカー	社会福祉等の専門的な知識・技術を用いて、児童生徒の置かれた様々な環境に働きかけて支援を行う社会福祉士、精神保健福祉士等。
	全国学力・学習状況調査	小学校および義務教育学校6年生、中学3年生および義務教育学校9年生を対象に、全国的に児童・生徒の学力・学習状況を把握・分析し、検証することを目的に、文部科学省が実施する調査。
	総合型地域スポーツクラブ	いつでも、どこでも、だれとでも、いつまでも運動やスポーツに親しむことができる社会を実現するために、地域住民が主体となって、自ら運営・管理する多目的・多世代のスポーツクラブ。
	総合教育会議	「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」の施行に伴い、平成27年4月1日から、全ての地方公共団体に設置されることになった会議体。市長及び教育委員会(教育委員)で構成され、これにより、市長が教育行政に果たす責任や役割が明確になるとともに、市長が公の場で教育政策について議論することが可能となった。
た 行	多文化共生	国籍を問わず、様々な文化をもった異なる仲間を認めあい、互いのよさを生かしあいながら、より豊かな社会を共に創りあげていこうとすること。
	中央図書館	市内の図書館の中で中心的役割を持つ図書館。市民の高度で多様な知的要求に応え、全市的なサービスを提供するための要となる図書館。
	中学生チャレンジウィーク	県内全ての公立中学2年生に対して実施している職場体験週間。
な 行	長浜学	市民が主体的に地域について学びながら、「みんながつながり、みんなで作る 長浜のまちづくり」を達成するため、研修講座を実施し、地域の人材の育成を図る。
	長浜子どものちかい	子どもが守ること、身につけること、実行すること等、行動様式や心構えを子どもの視点から約束する形で定めたもの。
	長浜市子育て憲章	親や大人の視点から子育てをするときの心得や子どもとの接し方、子どもに身に付けてほしいこと、子どものうちに育てたいこと等について、子育て

		て実践の拠り所として定めたもの。
	長浜市就学前教育カリキュラム	市内全園対象に、各学年における確実に経験させたい内容を示し、全園の向上を図るために作成した教育・保育計画。
	長浜学びの実験室	長浜バイオ大学内に開設される、市内小中学生が対象の理科実験講座。大学内の「長浜学びの実験室」において大学教員指導のもと、小中学校・義務教育学校ではできない高度な実験観察等の体験的学習講座を学校の授業の一環として実施するもの。
は 行	放課後児童クラブ	就労等により保護者が昼間家庭にいない小学校の児童を対象に、放課後や小学校の長期休業中等に、適切な遊びや生活の場を与え、児童の健全育成を図る事業。
ま 行	マイ体力アップ	子どもが、1日5分間程度、自ら進んでできる軽運動を継続的に行うこと。体力向上を図るだけではなく、運動習慣の確立と、生涯スポーツに親しむための基盤を築き、健康な生活を送ることができるようにすることを目的としている。
	めざす子ども像	子どもたちの豊かで安定した未来をめざす心の醸成という人間としての土台づくりに観点を絞り、こんな子どもに育てほしいという願いを込めて掲げられたもの。
や 行	やさしい日本語	普段使われている言葉を外国人にもわかるように配慮した、簡単な日本語。文章をわかりやすく書いたり、漢字にルビをふる、ゆっくりわかりやすい言葉で話す、相手の話をゆっくり聞く、丁寧語で話す等、子ども、高齢者、障害を持つ人等様々な人にとってもわかりやすい点で、様々な人に有効な伝達手段。
ら 行	レファレンス	図書館利用者の調べものの相談に応じること。学習・研究・調査のために必要な資料や情報を司書が提供する等して、利用者と資料を結びつけるサービス。
A B C	エーエルティー ALT	Assistant of Language Teacher の略。日本人教師を補佐し、生きた英語を子どもたちに伝える英語を母語とする外国人の英語指導者。
	セフアール CEFR	外国語の学習者が、どのくらいの能力を習得しているのかということを示す際に用いられるガイドライン。ヨーロッパを中心に広く使われてきた国際標準規格。
	アイシーティー ICT (情報通信技術)	Information and Communication Technology の略。コンピュータやインターネットに関連する情報通信技術に、コミュニケーションの概念を加えた言葉。
	ジェーティーイー JTE	Japanese Teacher of English の略。日本人の英語指導者。
	ピーディーシーイー PDCAサイクル	事業活動において管理業務を円滑に進める手法の一つで、Plan(計画)→Do(実行)→Check(評価)→Act(改善)の4段階を繰り返すことに

		よって、業務を継続的に改善する。
	エスディールズ SDGs	Sustainable Development Goals の略。2015 年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」にて記載された 2016 年から 2030 年までの国際目標であり、持続可能な世界を実現するための 17 のゴール・169 のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っています。
	エスエスエス SNS	Social Networking Service の略。人と人とのつながりを支援するインターネット上のサービス。自分の履歴を載せ、共通の趣味等を持つほかの会員たちとメッセージのやり取りをする「友達の輪」のネットワーク型の組織。